

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第212集

上野々遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

上野々遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました東北横断自動車道建設事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存という相容れない要素をもつ調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成5年度に発掘調査した上野々遺跡の調査結果をまとめたものであります。上野々遺跡は小鬼ヶ瀬川左岸に位置し、調査の結果、縄文時代と考えられる陥し穴、近世の掘立柱建設跡が発見され新しい資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所や湯田町教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 高橋 令 則

例 言

- 1 本報告書は、岩手県和賀郡湯田町第39地割65-2ほかに所在する上野々遺跡^{うえののいせき}の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線の建設に伴い遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は日本道路公団仙台建設局北上工事事務所と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳の遺跡番号、調査略号、調査面積及び調査期間は次のとおりである。

	遺跡番号	調査略号	調査面積	調査期間
上野々遺跡	MG14-0204	UN-93	2,500 m ²	平成 5年 4月19日～ 5月31日
- 4 発掘調査および室内整理は鈴木貞行・柳田磨が担当した。
- 5 報告書の執筆は、「Ⅰ調査に至る経過」を三浦謙一が、「Ⅱ立地と環境」を佐瀬隆、他を鈴木貞行が担当した。
- 6 分析や鑑定は、次の方々に依頼した(敬称略)。

石質鑑定	佐藤二郎 (長内水源工業)
木材樹種同定	高橋利彦 (木工舎「ゆい」)
- 7 基準点測量は、東日本測量設計株式会社に委託した。
- 8 空中写真撮影は、有限会社NRC岩手空撮に委託した。
- 9 野外調査・整理に際して、次の方々から御教示・御協力をいただいた(敬称略)。

高橋徳雄 (湯田町歴史資料館)
- 10 野外調査では、湯田町教育委員会及び地元の方々の協力を得た。
- 11 調査に関わる諸記録、出土遺物等は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目次

序
例言

<本文>

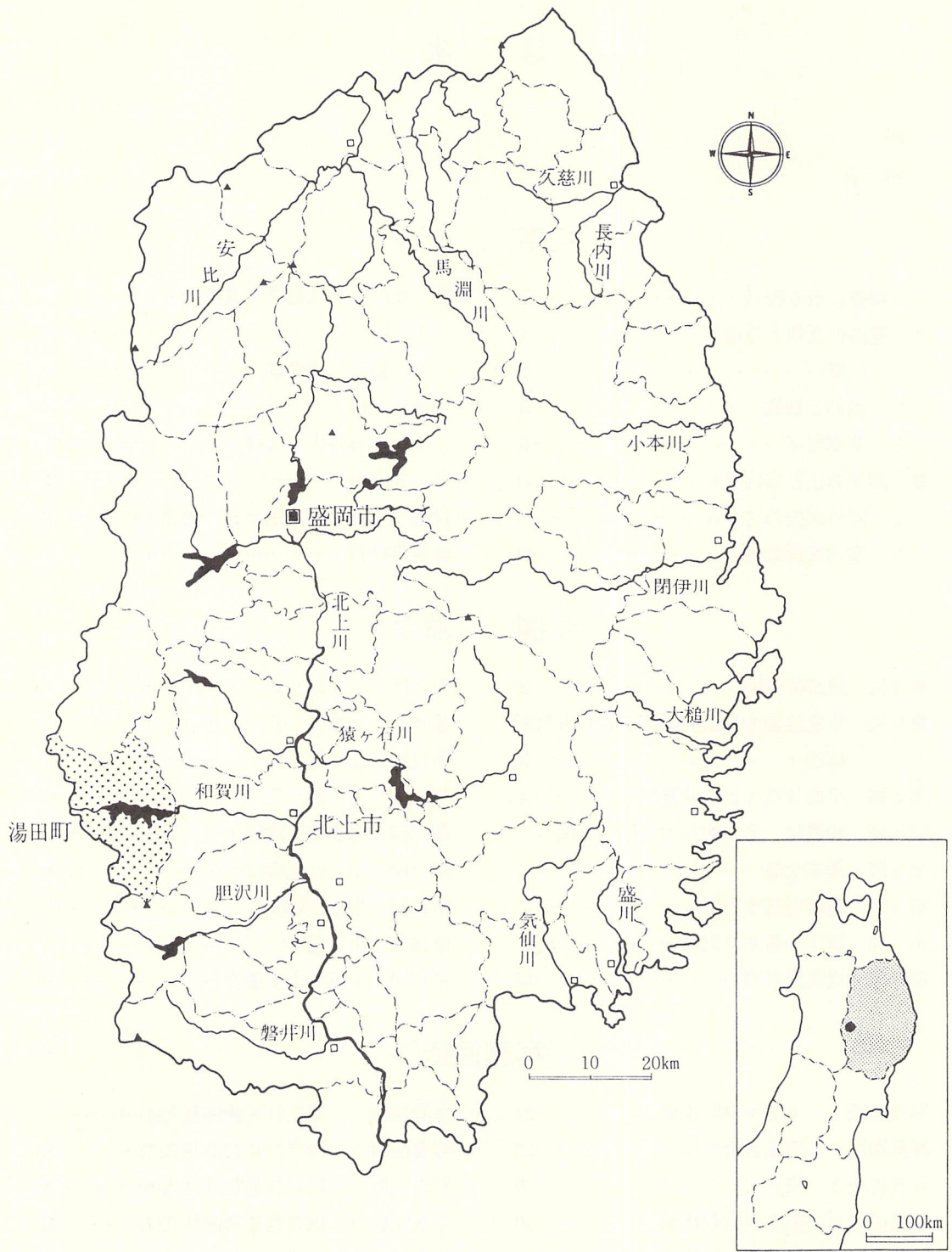
I 調査に至る経過	1	IV 検出された遺構と遺物	13
II 遺跡の立地と環境	3	1 陥し穴	13
1 位置	3	2 掘立柱建物跡	15
2 地形と地質	3	3 土抗	22
3 基本層序	6	4 遺構外出土遺物	22
III 調査方法と室内整理	11	V まとめ	24
1 野外調査の方法	11	付編 上野々遺跡出土材の樹種	25
2 室内整理の方法	11	報告書抄録	41

<図版>

第1図 遺跡位置図	2	第9図 1号陥し穴	13
第2図 平鹿盆地の東西両縁部を含む東西断面図	3	第10図 2号陥し穴	13
第3図 平鹿盆地付近の地質図	4	第11図 3号陥し穴	14
第4図 和賀川一鬼ヶ瀬川の地形区分図	5	第12図 4号陥し穴	14
第5図 基本土層	6	第13図 掘立柱建物跡(1)	16
第6図 遺跡周辺地形図	7	第14図 掘立柱建物跡(2)	17、18
第7図 周辺の遺跡位置図	9、10	第15図 出土遺物(1)	19
第8図 遺構配置図	12	第16図 出土遺物(2)	21
		第17図 遺構外出土遺物	22

<写真図版>

写真図版1 上野々遺跡遠景	27	写真図版8 掘立柱建物跡柱穴(4)	34
写真図版2 調査区全景他	28	写真図版9 掘立柱建物跡柱穴(5)	35
写真図版3 陥し穴	29	写真図版10 掘立柱建物跡柱穴(6)	36
写真図版4 掘立柱建物跡他	30	写真図版11 掘立柱建物跡柱穴(7)	37
写真図版5 掘立柱建物跡柱穴(1)	31	写真図版12 土抗	38
写真図版6 掘立柱建物跡柱穴(2)	32	写真図版13 出土遺物	39
写真図版7 掘立柱建物跡柱穴(3)	33	写真図版14 遺構外出土遺物	40



岩手県全図

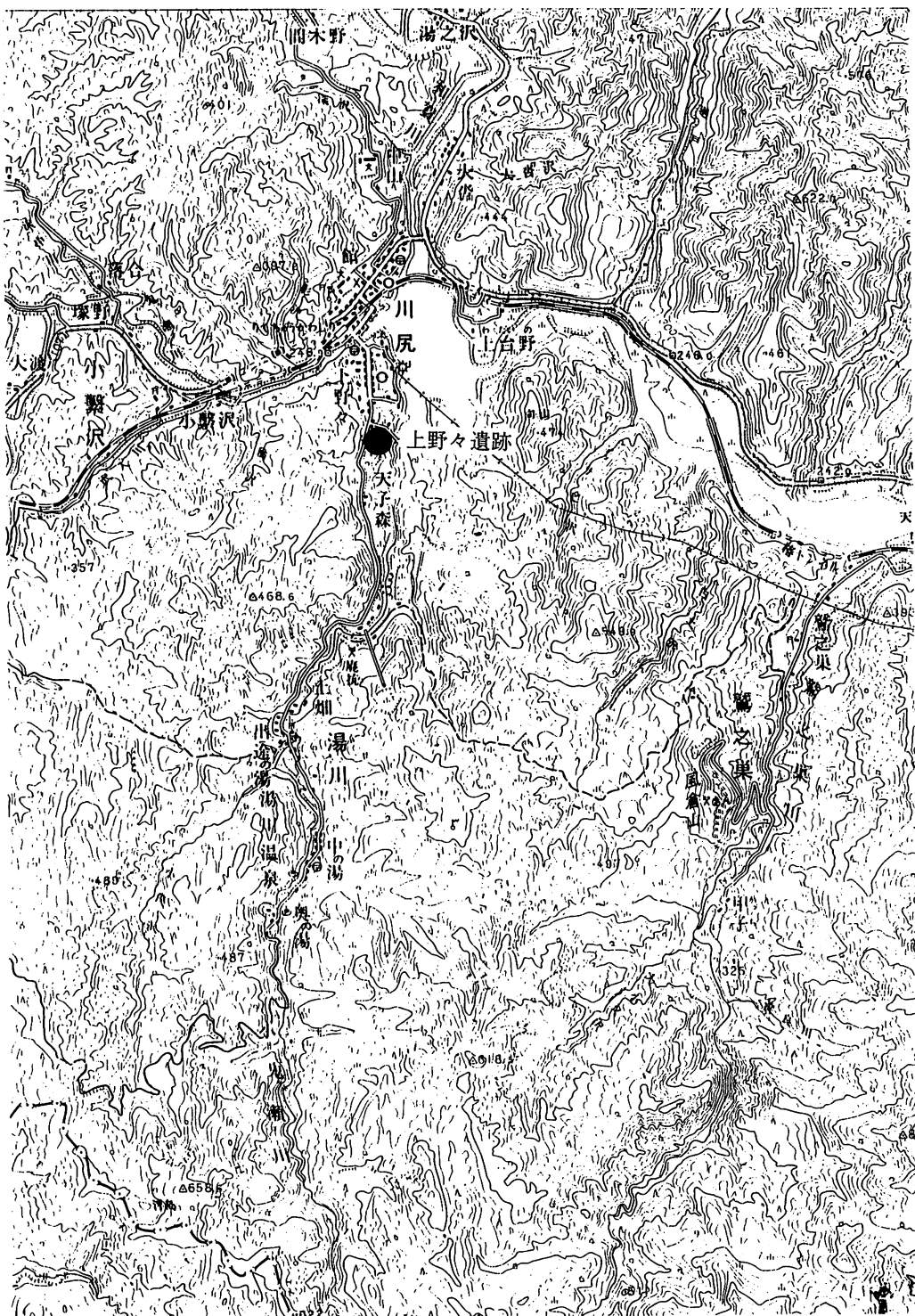
I 調査に至る経過

東北地方を縦に貫く大動脈「東北縦貫自動車道」に対し、これと交差し、あるいはこれを起点に横にのびる「東北横断自動車道」の一つである秋田自動車道は岩手県北上市で東北自動車より分岐し、秋田県横手市を経て同県秋田市に至る延長約123kmの高速道路である。昭和61年と同63年に施行命令が出された第9次・第10次区間のうち、北上ジャンクションから秋田県境までは33.9kmである。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行い、昭和62年4月13日付「仙建北工第35号」による依頼を受けて、同年5月25日付「教文第117号」により日本道路公団仙台建設局に結果を回答している。それにもとづいて両者が協議を行い、やむを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとし、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

それを受け、昭和63年以降、岩手県教育委員会が日本道路公団仙台建設局に発掘調査事業について照会して回答を得たのち、日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会・財団法人岩手県文化振興事業団の3者が協議を行い、当埋蔵文化財センターが発掘調査を実施してきた。

上野々遺跡の野外調査は、平成5年3月1日付「教文第1169号」による平成5年度埋蔵文化財発掘調査事業の通知を受け、同年4月1日付契約により着手したものである。



第1図 遺跡位置図

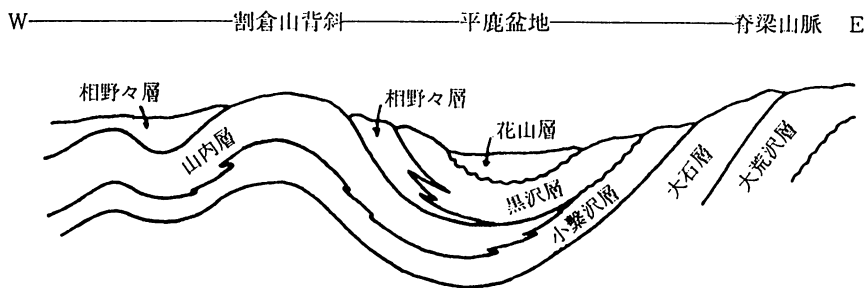
II 遺跡の立地と環境

1 位置

上野々遺跡の所在する湯田町は岩手県中央部の西端に位置し、東は北上市、西は秋田県雄勝郡東成瀬村、同県平鹿郡山内村、同県仙北郡六郷村、北は同県仙北郡千畑町、岩手県和賀郡沢内村、南は岩手県胆沢郡胆沢町と境を接している。同町は奥羽山脈の山間部に開けた沢内盆地の中央にあり、周囲を同山脈の山嶺に囲まれている。主な山嶺は、北から女神山(956m)、割倉山(770m)、白木峠(601m)、三森山(1,102m)、蟻巣山(1,155m)、三界山(1,381m)、南本内岳(1,486m)、焼石岳(1,548m)、牛形岳(1,389m)、鷲ヶ森山等である。町の総面積の82%が山林であり、11%が原野で占められている。和賀岳(1,440m)に源を発した和賀川は湯田町中部を南流したのち、川尻付近で直角状に折れて東流する。川尻を中心に、北に湯本、湯田、左草、下前、西に柳沢、新田郷、南に湯川、鷲ヶ森、大石、草井沢などの集落は、和賀川とその支流である数本の川が開析した段丘の上に散在している。気候は裏日本式で、県内では最も雨量が多く、豪雪地帯として知られている。J R北上線が町の中央を横断し、ゆだ錦秋湖・ほっとゆだ・ゆだ高原の3駅がある。国道107号線(通称平和街道)がほぼこれと平走する。

2 地形と地質

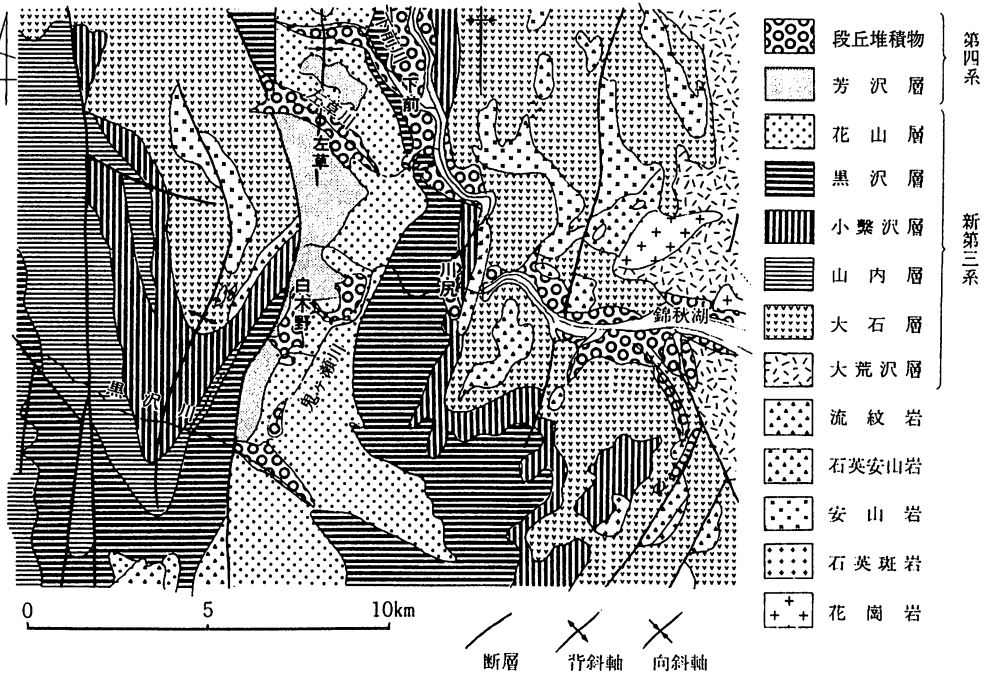
奥羽脊梁山脈は、東北地方を450kmにおよび南北につらなる一大山脈である。それはユーラシアプレートと太平洋プレートの境界である日本海溝にほぼ平行しており、プレート押力の結果として生じた大きな背斜構造としてとらえられるが、細かくみればそれぞれ地形的山脈と対応した雁行配列を示す小単位の背斜構造に分解される。たとえば、遺跡の位置する湯田町が含まれる地域は、南に向かって高度を下げる西側の和賀岳、割倉山背斜から逆に高度を上げる荒沢森背斜への脊梁山脈の移行部にあたる。両背斜間には花山向斜が存在し、平鹿盆地と呼ばれる地形的凹地に対応する(第2図)。なお、このような構造的特徴は、当地域に奥羽脊梁山脈



第2図 平鹿盆地の東西両縁部を含む東西断面図(長谷地質調査事務所(1983))

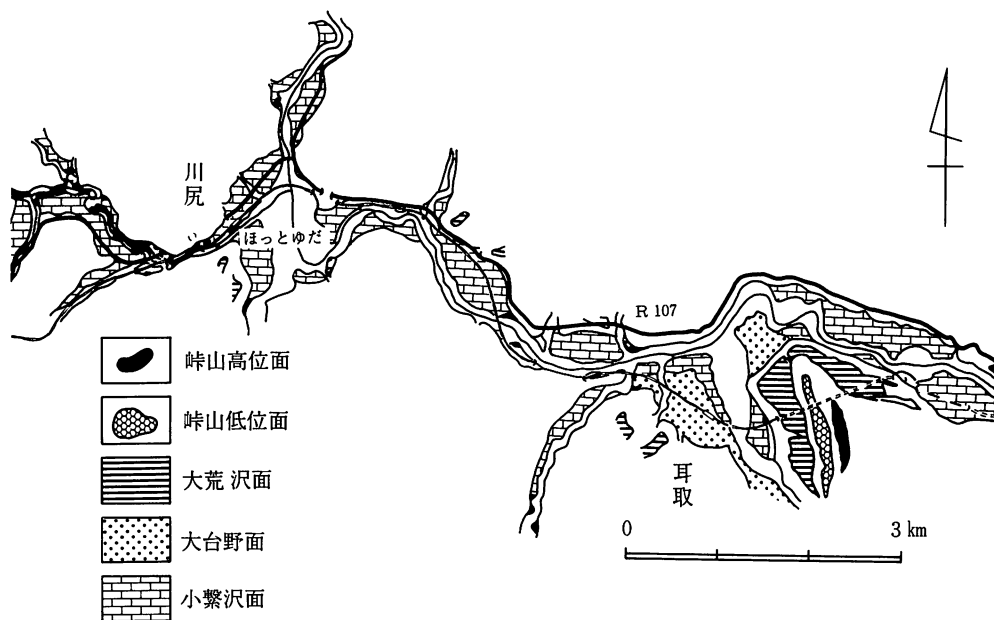
中で最も低い分水界(285m)が存在することと無関係ではなからう。河川の流向も地質構造の支配をうけている。北上川の主要支流の一つである和賀川は、その下流部において上記移行部の相対的低地を東西方向に流れる。荒沢森背斜を横切る和賀仙人では先行谷的性格の峡谷を形成している。一方、上流部では構造軸に平行に南流する。

第3図は湯田町付近の地質分布を示す。背斜部は主に第三系中新統下部、大荒沢層、大石層、小繫沢層などのグリーンタフ系の凝灰質岩により構成される。向斜部、平鹿盆地には、前記のグリーンタフ系の凝灰質岩を基盤として、砂岩を主とする中新統上部の黒沢層、同じく砂岩を主とする中新統上部～鮮新統の花山層が堆積する。これらを不整合に被い未固結の砂礫、粘土を主とし亜炭化した泥炭層を伴う第四系の花山層が堆積する。芳沢層は扇状地堆積物の層相を呈する。



第3図 平鹿盆地付近の地質図(長谷地質調査事務所(1981)による)

第4図は、遺跡の位置する和賀川-鬼ヶ瀬川流域の地形分布図である。段丘は峠山高位面、峠山低位面、大荒沢面、大台野面、小繫沢面の4面に区分される(Toyoshima,1984)。大台野、小繫沢の両面の形成には最終氷期後半の気象変動が関係する(Toyoshima,1984)。すなわち、小雨寒冷気候下で、河川の運搬力を上回り供給された砂礫などから厚い谷堆積物が形成され、その後、気候の温暖湿潤化に伴い、河川の浸食力が増加することで、まず、谷堆積物を構成層とする大台野面の離水が生じた。さらに勾配のより小さい流路にそって、側方浸食も働いて谷堆積物を浸食面とする小繫沢面が形成されたと考えられている(Toyoshima,1984)。堆積



第4図 和賀川—鬼ヶ瀬川の地形区分図 (Toyoshima (1984))

から浸食への転換期は、約2万年前と推定される (Toyoshima, 1984)。両面は中川ほか(1971)の川尻段丘に相当する。川尻段丘は和賀川下流域の金ヶ崎段丘に対比される (中川ほか、1971)。今回調査した上野々遺跡は小繋沢面に立地する。

〈地形・地質関係の参考・引用文献〉

Toyoshima, M. (1984) The Sequence of River Terrace Development in the Last 20,000 Years in the Ou Backbone Range, Northeastern Japan. *the Science Reports of the Tohoku University, 7th Series (Geography)*, 34, 88-105.

岩手県 (1979) 北上山系開発地域・土地分類基本調査「川尻」5万分の1・国土調査

中川久夫・石田琢二・大池昭二・小野寺信吾・北崎 修・松山 力 (1971) 北上線沿線の段丘群

東北大学地質古生物研邦, No. 71, 47-59

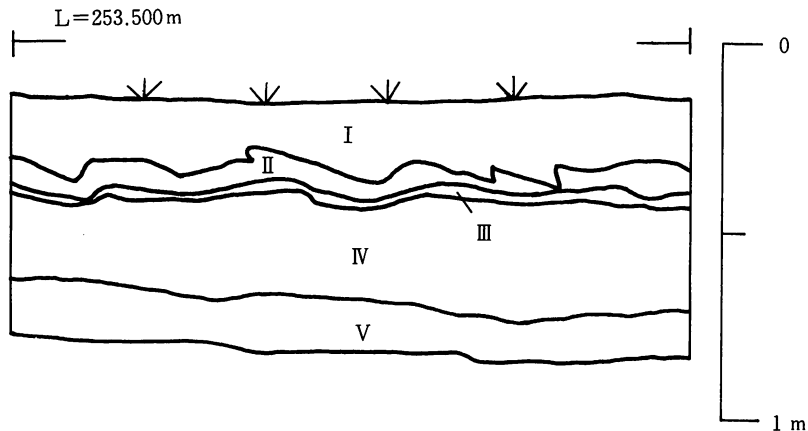
長谷地質調査事務所 (1981) 北上川流域地質図 (二十万分之一) 説明書

日本の地質「東北地方」編集委員会 (1989) 日本の地質2・東北地方. 共立出版

3 基本層序 (第5図)

調査区は全面にわたって水田造成時に削平を受けており、特に南東側地山面には重機キャタピラ痕が見られた。また、調査区北西側は平坦面を作り出すため削平され、表土直下が明緑灰色粘土層となっている。旧地形が残っている南東側の層序は次の通りである。

- I 層 暗褐色土(10YR3/2)シルト。表土層。木根多く粘性あり。にぶい黄橙色土(10YR6/4)混入。層厚12~20cm。
- II 層 にぶい黄橙色土(10YR6/4)。しまり強い。層厚 5cm前後。
- III 層 明赤褐色土(5YR5/8)。しまり強い。層厚3cm 前後。
- IV 層 黄橙色土(10YR7/8)。しまり強い。層厚22~30cm。上面が遺構検出面。
- V 層 明黄褐色土(10YR6/6)。しまり強い。層厚12cm以上。



第5図 基本土層

4 周辺の遺跡 (第7図)

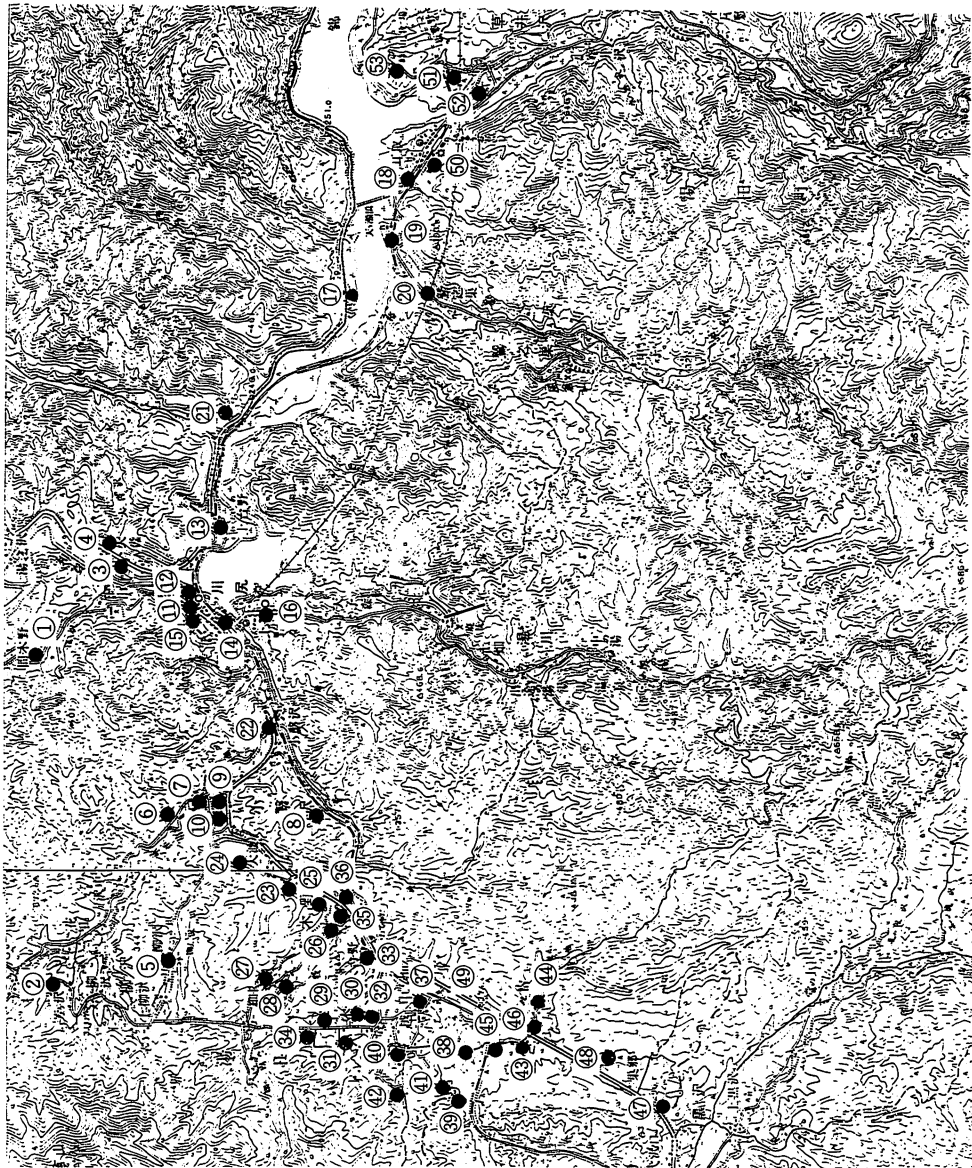
岩手県遺跡登録台帳によれば、湯田町では現在までに55の遺跡が登録されている。このうち、発掘調査された代表的な遺跡には大台野遺跡(35)がある。大台野遺跡は旧石器時代から弥生時代にかけての複合遺跡であるが、県内において調査された旧石器時代の遺跡の代表的なものである。ナイフ型石器、彫刻刀型石器、搔器など1万余点が出土している。平成2年度には東北横断自動車道秋田線建設関連の遺跡発掘事業が始まり、塚野I遺跡・塚野II遺跡・大渡遺跡・大渡II遺跡・越中畑IV遺跡・越中畑V遺跡・白木野I~III遺跡が調査されている。

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構/遺物	備考
1	間木野 II	散布地	旧石器	
2	芳が沢 一里塚	史跡	塚 1基	
3	大沓 I	散布地	縄文(中期)土器、石斧、石匙、石鍬、土錘	昭和59年調査
4	大沓 II	散布地	縄文土器、石器	昭和59年調査
5	柳沢 I	散布地	縄文土器	
6	落合	集落跡	縄文土器	
7	小繫沢 I	散布地	縄文土器、石器	
8	小繫沢 II	集落跡	剥片、旧石器	
9	塚野 I	散布地	土坑、縄文土器、石器	平成4年調査
10	塚野 II	散布地	土坑、陥し穴、縄文土器、石器	平成4年調査
11	川尻館	館跡		
12	川尻館	集落跡	石錘、石斧、縄文(前末~中初)土器、石鍬、石槍	損壊
13	川尻中学校	散布地	縄文(中期)土器、石斧、石匙、石錘	損壊
14	川尻 I	散布地	縄文土器、石器	
15	川尻 II	散布地		
16	上安野々	散布地	縄文土器片、石匙、剥片石器	
17	安倍館	館跡	古代?伝承地	
18	耳取 III	散布地	縄文土器、石器	
19	八鷺幡館	館跡	古代?、伝承地	
20	鷺ノ巣	散布地	縄文(中期)土器、石匙、石鍬	
21	廻戸	散布地	縄文(後~中期)土器、石刃、剥片	
22	合野々	散布地	剥片石器、土器片	
23	大渡	散布地	縄文土器、石器	平成3・4・5年調査
24	大渡 II	キャンプ跡?	旧石器、縄文土器、石器	
25	大渡 III	キャンプ跡?	旧石器、炭化物粒	
26	大渡 IV	集落跡	縄文土器	
27	細内 I	散布地	化石	
28	細内 II	キャンプ	旧石器	
29	白木野 I	散布地	剥片石器	平成4年調査
30	白木野 II	散布地	近世民家、陶磁器	平成4年調査
31	白木野 III	散布地	掘立柱建物跡、陶磁器	平成4年調査
32	白木野 V	散布地	旧石器、石刃	
33	白木野 VI	散布地	旧石器、彫刻刀、石刃	
34	白木野 VII	散布地	旧石器、剥片、炭化物粒	
35	大台野	集落跡	旧石器~弥生土器、石器	昭和45~57年調査
36	大台野 II	散布地	縄文土器、石器	
37	越中畑 I	散布地	縄文土器	
38	越中畑 II	散布地	旧石器、剥片石器	
39	越中畑 III	散布地	縄文土器	
40	越中畑 IV	散布地	掘立柱建物跡、溝跡、陶磁器	平成4年調査
41	越中畑 V	散布地	炭燼、土坑、溝跡、石器	平成3・4年調査
42	越中畑御番所跡	番所跡		
43	野々宿北	散布地	旧石器、剥片石器	
44	野々宿 I	集落跡	縄文土器、石器	
45	野々宿 II	散布地	旧石器、剥片石器	
46	野々宿 III	キャンプ跡?	旧石器、剥片石器	
47	果郷 I	散布地	縄文土器、石器	
48	果郷 II	散布地	旧石器、剥片石器	
49	中村	散布地	旧石器、剥片石器	
50	耳取 I	散布地	旧石器、縄文土器	平成5・6年調査
51	本内 I	散布地	縄文土器、石器、近世陶磁器	平成5年調査
52	本内 II	集落跡	縄文住居跡、早期~晩期土器、弥生土器	平成5・6年調査
53	峠山牧場	散布地	旧石器、縄文土器、土師器	平成5・6年調査
54	湯之沢	散布地	縄文土器、石器	
55	間木野 I	散布地	旧石器	昭和59年調査

- ②③白木野 I 遺跡
- ②③白木野 II 遺跡
- ②③白木野 III 遺跡
- ②③白木野 IV 遺跡
- ②③白木野 V 遺跡
- ②③白木野 VI 遺跡
- ②③白木野 VII 遺跡
- ②③白木野 VIII 遺跡
- ②③大石野 遺跡
- ②③大台野 II 遺跡
- ②③越中畑 I 遺跡
- ②③越中畑 II 遺跡
- ②③越中畑 III 遺跡
- ②③越中畑 IV 遺跡
- ②③越中畑 V 遺跡
- ②③越中畑御番所跡
- ②③野々宿北 遺跡
- ②③野々宿 I 遺跡
- ②③野々宿 II 遺跡
- ②③野々宿 III 遺跡
- ②③果郷 I 遺跡
- ②③果郷 II 遺跡
- ②③中村 遺跡
- ②③耳取 I 遺跡
- ②③本内 I 遺跡
- ②③本内 II 遺跡
- ②③峠山牧場 I 遺跡

- ①間木野 II 遺跡
- ②芳が沢一里塚
- ③大香 I 遺跡
- ④大香 II 遺跡
- ⑤柳沢 I 遺跡
- ⑥合 遺跡
- ⑦小繁沢 I 遺跡
- ⑧小繁沢 II 遺跡
- ⑨塚野 I 遺跡
- ⑩塚野 II 遺跡
- ⑪川尻 館
- ⑫川尻 館 学校
- ⑬川尻 I 遺跡
- ⑭川尻 II 遺跡
- ⑮上野々 遺跡
- ⑯安 遺跡
- ⑰耳取 遺跡
- ⑱安 遺跡
- ⑲人 遺跡
- ⑳鷺ノ巣 遺跡
- ㉑戸 遺跡
- ㉒合野々 遺跡
- ㉓大渡 I 遺跡
- ㉔大渡 II 遺跡
- ㉕大渡 III 遺跡
- ㉖大渡 IV 遺跡
- ㉗細内 I 遺跡
- ㉘細内 II 遺跡



第7図 周辺の遺跡位置図



第6図 遺跡周辺地形図

Ⅲ 調査方法と室内整理

1 野外調査の方法

(1) グリットの設定

調査範囲内に平面直角座標第X系により、次の2点を設定した。

基点1 $X = -77,146.246\text{m}$ $Y = -4,483.106\text{m}$

基点2 $X = -77,156.086\text{m}$ $Y = -4,423.595\text{m}$

この2点のうち、基点1を座標原点とし、原点と基点2を結ぶ線と、原点を通りこれと直交する線を基準線とした。

(2) 粗掘・遺構検出

雑物除去後、調査区域内の数カ所にトレンチを入れて検出面までの深さ及び層序の確認を行い、その後人力により表土除去から遺構検出、精査と作業を進めた。

検出した遺構の呼称は、数が少ないため検出した順に番号を付した。

(3) 精査・出土遺物の取り上げ

検出された遺構は、陥し穴、柱穴、土坑等は2分法を原則として精査した。精査の各段階で図面の作成や写真撮影等、必要な記録を取った。遺構外出土遺物は、グリット単位で層位を記入して取り上げた。

(4) 実測

平面実測は簡易遣り方測量と平板測量で行った。基準点を原点とする座標系を用い、グリット軸に合わせた1mメッシュを基本とした。断面形は任意の高さで作成した。実測図は20分の1を原則とし、場合によっては任意縮尺で作成した。

(5) 写真記録

写真撮影には6×7cm版モノクロ1台、35mm版モノクロと同カラーリバーサル各1台をセットで使用した。但し、状況に応じて6×7cm版を省略している場合もある。

2 室内整理の方法

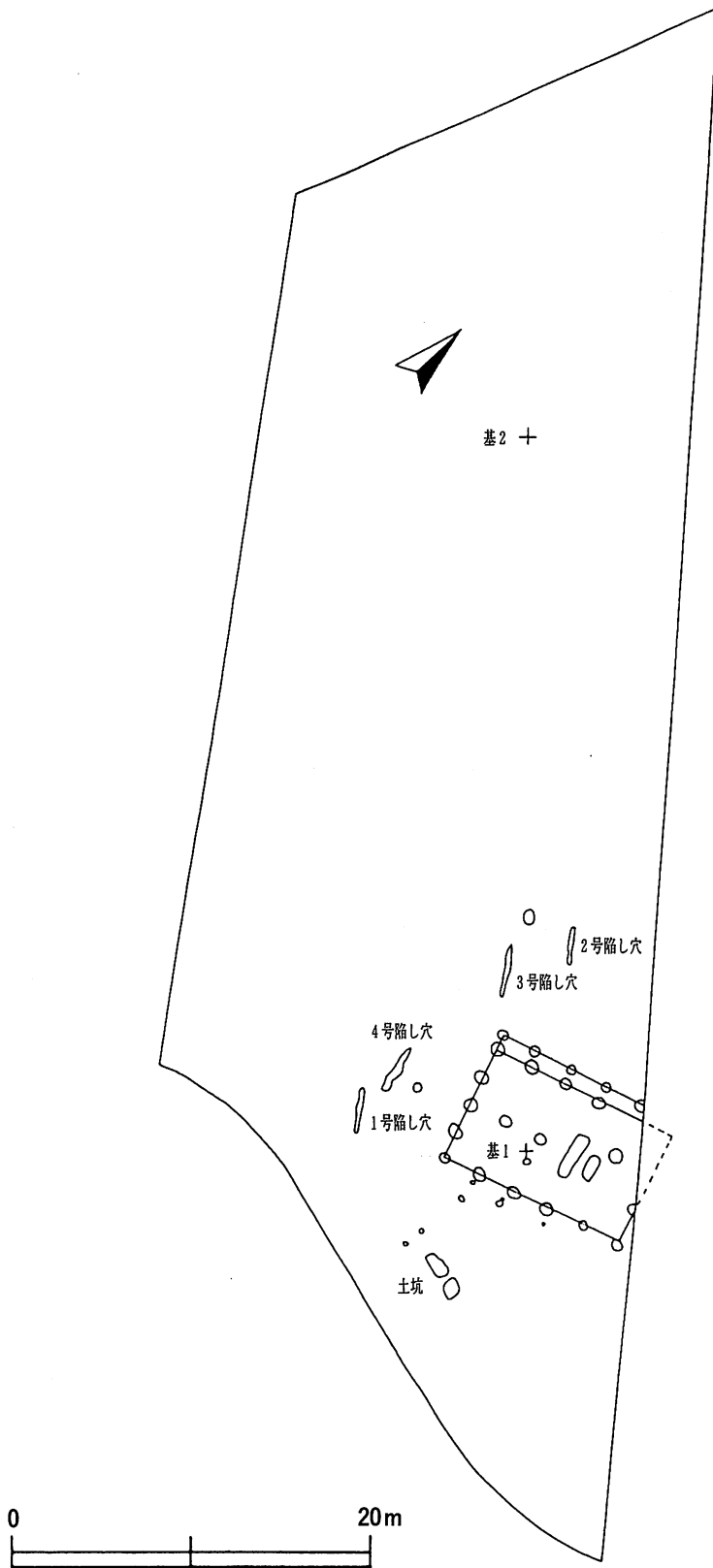
(1) 作業手順

遺構については実測図の点検、合成、トレース、図版作成の順に作業を進めた。

遺物については接合、復元、仕分、登録を行い、その後、写真撮影、実測や拓本、トレース、計測、図版作成を順に進めた。

(2) 図版

遺構実測図の縮尺は、40分の1を原則とした。これに該当しないものは別にスケールを付した。遺物実測図には、個々にスケールを付した。写真図版の縮尺は遺構・遺物とも不定である。



第8図 遺構配置図

IV 検出された遺構と遺物

本遺跡から検出された遺構は、陥し穴4基、近世の掘立柱建物跡1棟、土坑4基である。出土した遺物は、縄文土器、石器、陶磁器である。

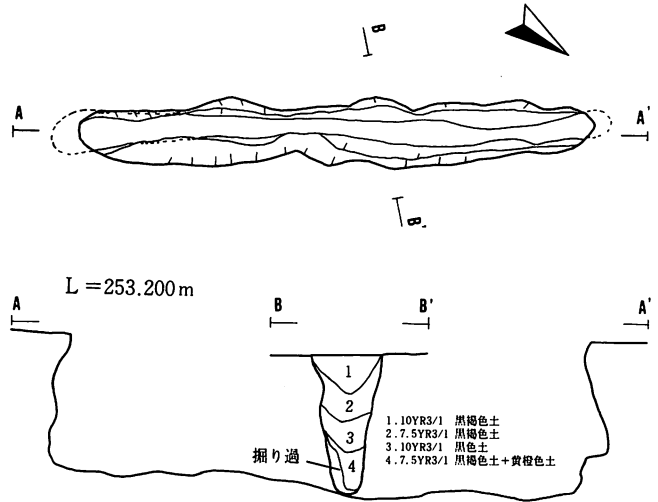
1 陥し穴

1号陥し穴（第9図、写真図版3）

調査区南東部に位置し、IV層上面で検出された。平面形は開口部・底部ともに細長い溝状であり、単軸の断面形はU字状を呈する。長軸方向はN36°-Wである。規模は開口部274×42cm、底部298×14cm、深さは中心部で約74cmである。

長軸両端の壁はオーバーハングしている。底面はほぼ平坦で杭跡はない。

埋土は4層に細分され、上位から黒褐色土、黒色土、黒褐色+黄褐色土の順である。出土遺物はなく時期の特定はできないが、縄文時代の遺構と考えられる。

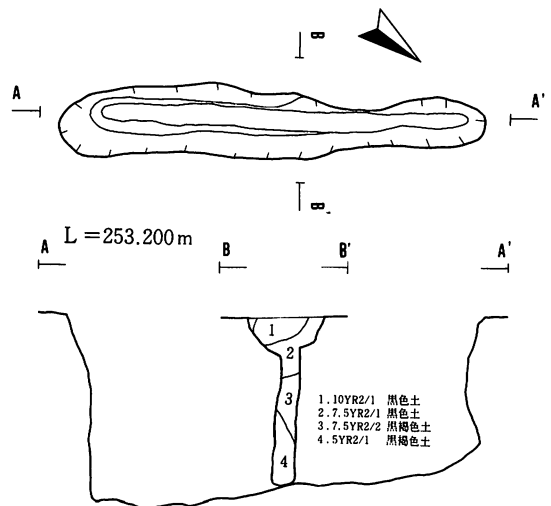


第9図 1号陥し穴

2号陥し穴（第10図、写真図版3）

調査区東端に位置し、IV層上面で検出された。平面形は開口部・底部ともに細長い溝状であり、単軸の断面形はU字状を呈する。長軸方向はN-37°-Wである。規模は開口部226×38cm、底部194×10cm、深さは中心部で約88cmである。底面は南西に向って傾斜している。杭跡はない。

埋土は4層に細分されるが、黒褐色土と黒色土が主体である。出土遺物はなく時期の特定はできないが、縄文時代の遺構と考えられる。

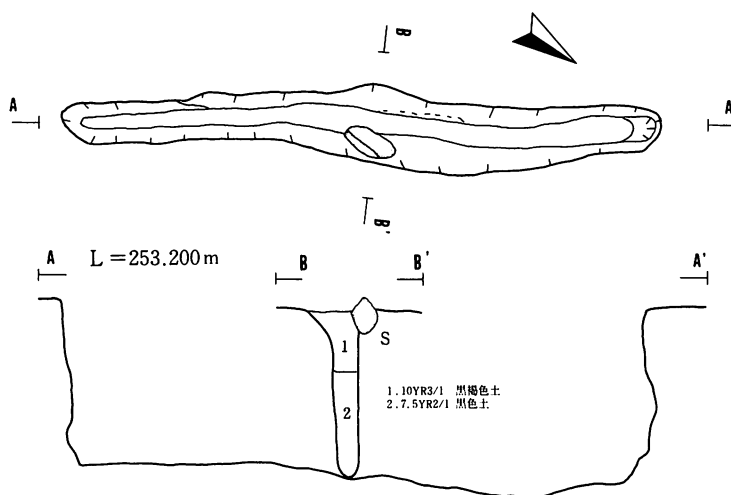


第10図 2号陥し穴

3号陥し穴 (第11図、写真図版3)

調査区東端に位置し、IV層上面で検出された。平面形は開口部・底部ともに細長い溝状であり、単軸の断面形はU字状を呈する。長軸方向はN-34°-Wである。規模は開口部320×42cm、底部294×14cm、深さは中心部で87cmで壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面はほぼ平坦で杭跡はない。

埋土は黒褐色土と黒色土の2層に分けられる。出土遺物はなく時期の特定はできないが、縄文時代の遺構と考えられる。

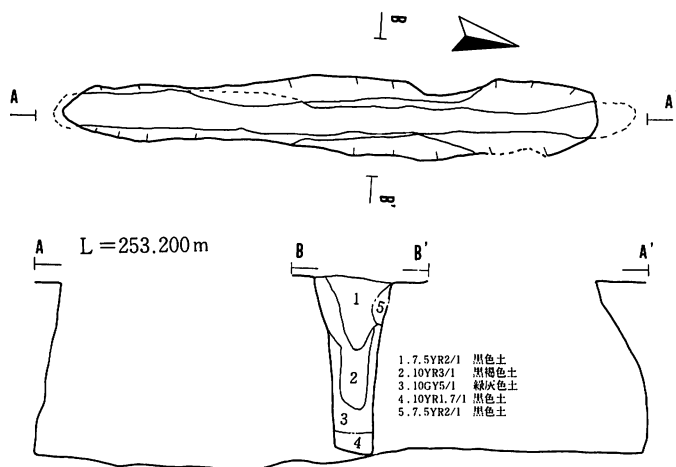


第11図 3号陥し穴

4号陥し穴 (第12図、写真図版3)

調査区東端に位置し、IV層上面で検出された。平面形は開口部・底部ともに細長い溝状であり、単軸の断面形はU字状を呈する。長軸方向はN-12°-Wである。規模は開口部284×42cm、底部310×14cm、深さは中心部で92cmある。長軸両端の壁はオーバーハングしている。底面はやや傾斜している。杭跡はない。

埋土は5層に細分され、上位から黒色土、黒褐色土、緑灰色土、黒色



第12図 4号陥し穴

土の順である。出土遺物はなく時期の特定はできないが、縄文時代の遺構と考えられる。

2 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡（第13図、写真図版4）

1棟検出された掘立柱建物跡は調査区の南東部に位置し、一部は調査区外のため未検出である。規模は4間×5間と推定され、桁行全長約10.8m、梁行約6.7mで北側に約0.9mの庇が付く。

〈延床面積〉72.4m²〔約22坪〕である。

〈建物方位〉梁行の軸方向はN-12°-Wである。

〈柱穴〉各柱穴の計測値は観察表に記した。

〈出土遺物〉1～7（陶磁甕、陶磁皿、磁器碗、播鉢）が遺構の床面および柱穴から出土した。

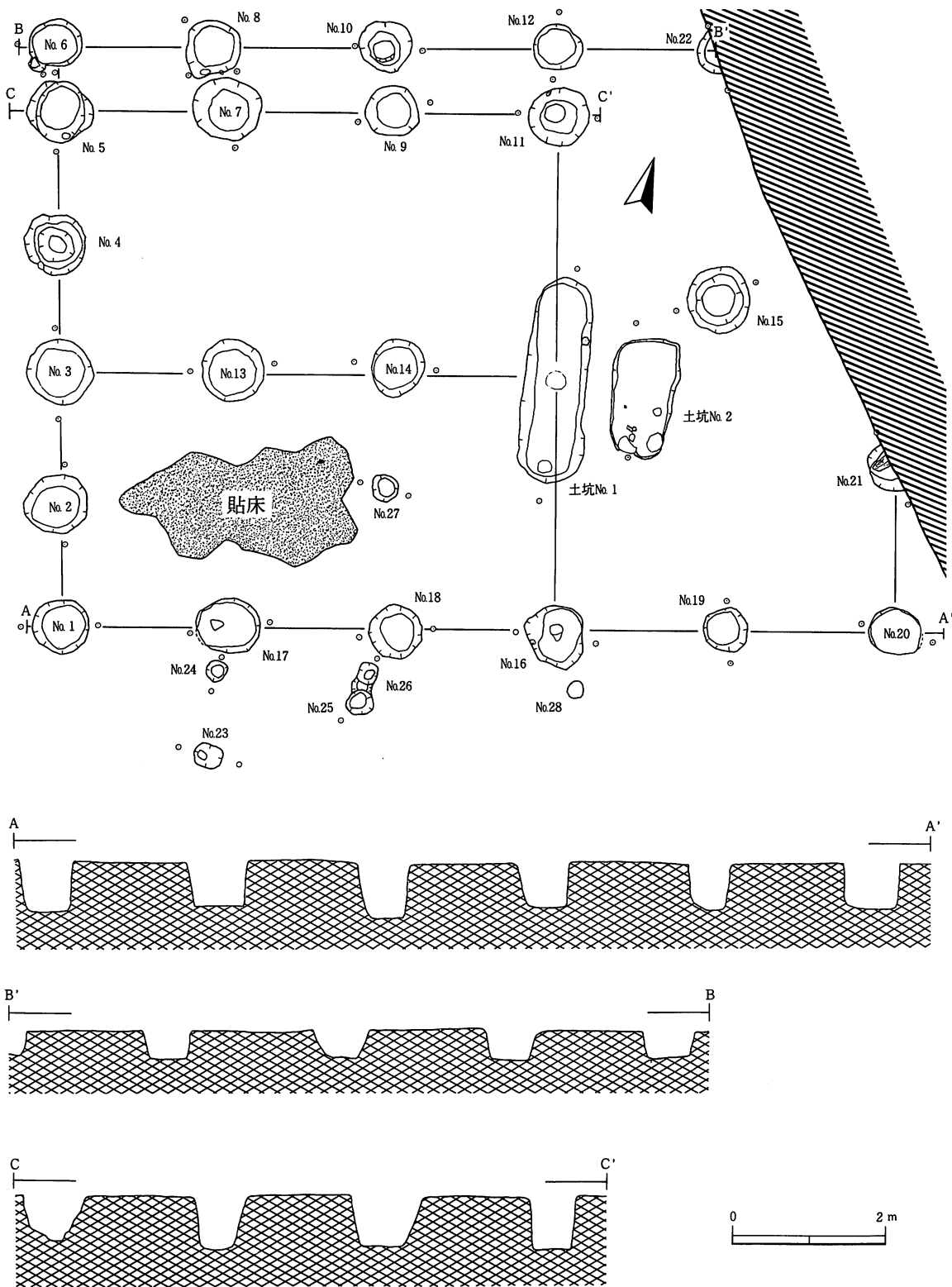
8は柱穴No21から出土した柱根で材質はクリに同定された。（付編参照）

9～19は検出段階で出土した遺物であるが、本遺構に伴うものと思われる。

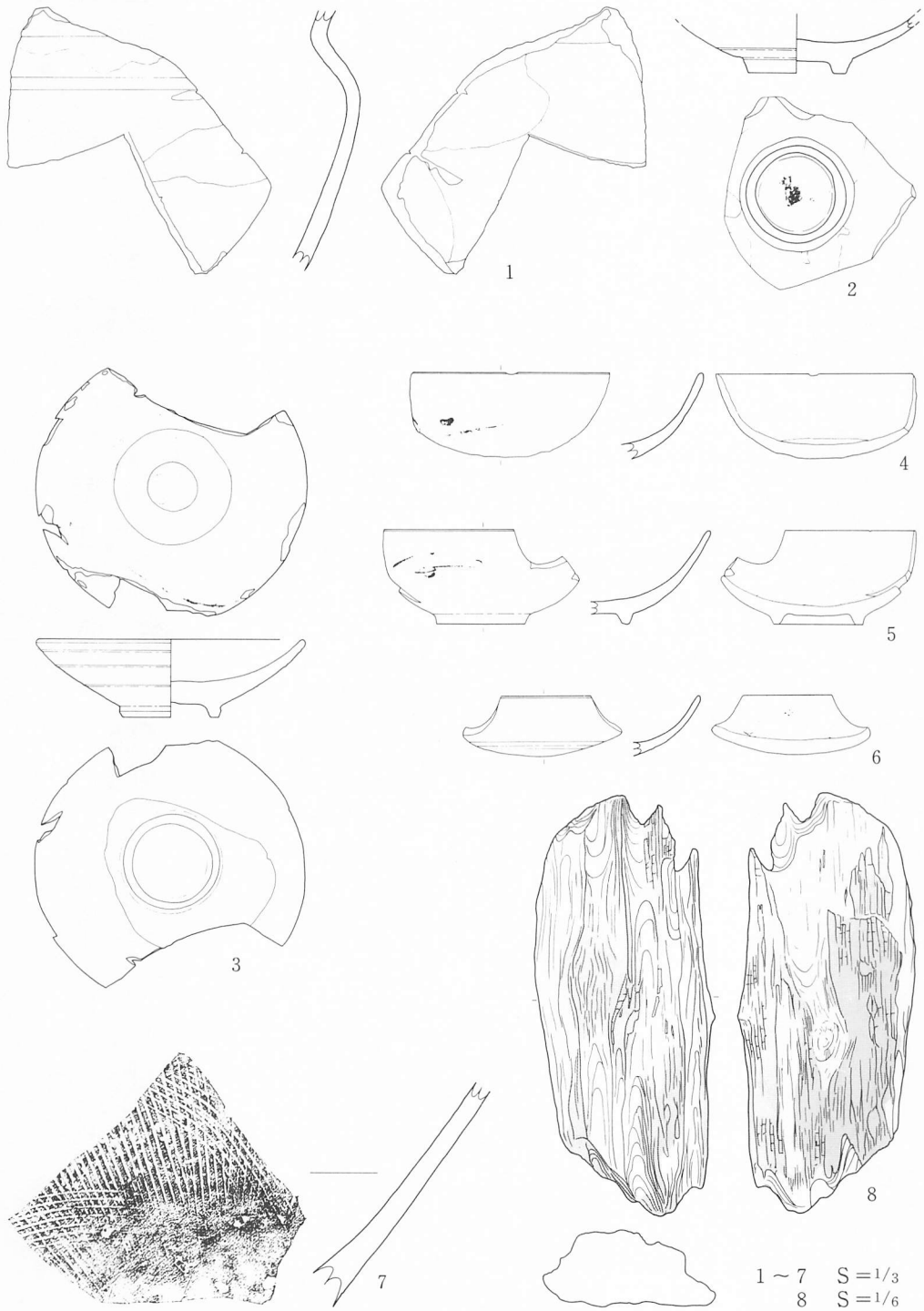
柱穴観察表

(cm)

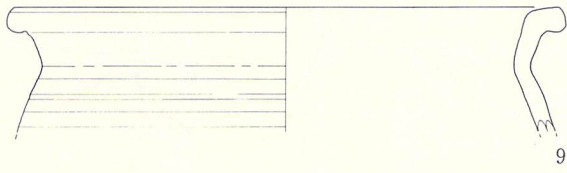
番号	開口部	底部	深さ	備考	番号	開口部	底部	深さ	備考
1	72×70	54×53	66	柱痕あり	17	72×85	56×75	55	柱痕あり
2	77×82	65×52	50	柱痕あり	18	68×71	40×48	60	柱痕あり
3	86×85	61×56	59	柱痕あり	19	56×55	40×47	60	柱痕あり
4	78×76	46×45	62	柱痕あり	20	60×72	55×67	58	石あり
5	60×80	50×54	54	柱痕あり	21	30×67	38×42	82	柱根あり
6	63×67	48×55	43	柱痕あり	22	22×56	14×40	60	柱痕あり
7	90×85	50×52	59		23	30×39	12×10	63	
8	70×67	52×50	43		24	28×30	18×16	56	柱痕あり
9	68×65	44×43	70		25	35×32	18×20	20	
10	65×68	40×47	45	柱痕あり	26	25×30	9×15	55	
11	78×80	48×55	60	石あり	27	34×35	22×20	43	
12	63×61	47×46	36		28	22	20	44	
13	76×80	58×56	65	柱痕あり	29	57×70	52×56	20	
14	75×70	55×52	56	石あり	30	14×20	10×11	41	
15	80×85	41×40	74		31	20×26	5×14	47	
16	70×86	56×68	55	石あり					



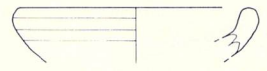
第13图 掘立柱建物跡(1)



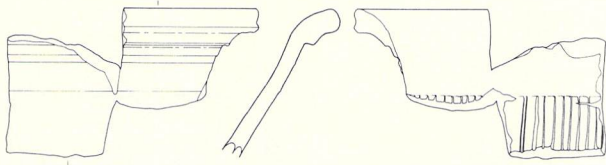
第15図 出土遺物(1)



9



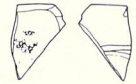
10



12



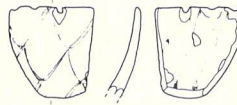
14



18



11



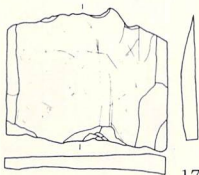
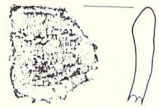
13



19



15



17



16



21

S=1/3

第16図 出土遺物(2)

3 土坑・小ピット（写真図版12）

土坑4基、小ピット2個が検出されたが埋土の状況（針金等出土）から新しい時期のものである。したがって遺構図版は省略した。

4 遺構外出土遺物

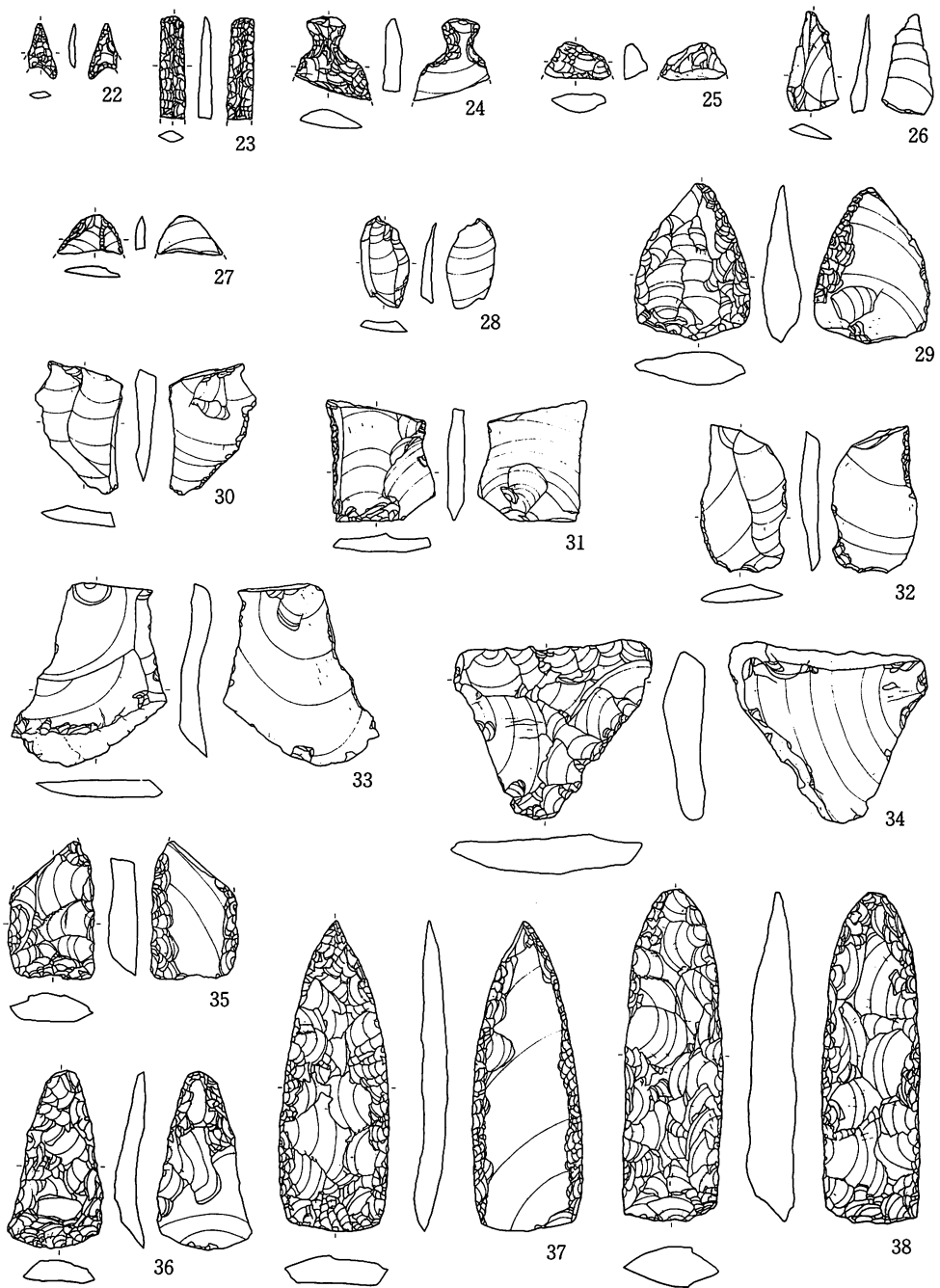
縄文土器：僅かに小破片10点が出土した。20は鉢の口縁部と考えられる。

石器：石器は17点出土した。器種、計測値、石質等は観察表に記した。

石製品：21の1点が出土した。用途は不明であるが細長い棒状のもので、一部欠損している。計測値は長さ4.5cm、径0.6cm、重さ3gで、石質は細粒珪質凝灰岩である。

石器観察表

遺物 番号	出土地点・層位	器種	計測値				石質	産地	写図 番号
			長さcm	幅 cm	厚さcm	重量 g			
29	9 トレンチ	石鏃	(2.3)	(1.25)	0.3	1	玉髓	川尻付近中新統	14
23	トレンチ	石鏃	(4.3)	(1.1)	(0.6)	3	細粒珪質凝灰岩	川尻以西中新統	14
24	ベルト1層	石匙	(3.5)	(3.15)	(0.8)	6	細粒珪質凝灰岩	川尻以西中新統	14
25	表採	剝片	1.6	2.8	1.0	3	細粒珪質凝灰岩	川尻以西中新統	14
26	7 トレンチ	剝片	4.2	2.1	0.8	4	硬質泥岩	川尻以西中新統	14
27	7 トレンチ		(1.6)	(2.7)	(0.4)	2	硬質泥岩	川尻以西中新統	14
28	表採	剝片	(3.8)	(2.1)	(0.5)	4	硬質凝灰質泥岩	川尻以西中新統	14
29	11 トレンチ		6.6	4.9	1.6	42	硬質凝灰質泥岩	川尻以西中新統	14
30	14 トレンチ	不定形石器	5.5	3.7	0.9	15	硬質泥岩	川尻以西中新統	14
31	15 トレンチ	不定形石器	5.1	4.5	0.7	23	硬質凝灰質泥岩	川尻以西中新統	14
32	表採	不定形石器	6.2	3.6	0.8	19	硬質泥岩	川尻以西中新統	14
33	1号掘立柱穴No.11	剝片	7.7	6.5	1.3	48	硬質凝灰質泥岩	川尻以西中新統	14
34	16 トレンチ	不定形	7.6	7.3	1.8	88	硬質凝灰質泥岩	川尻以西中新統	14
35	15 トレンチ		(5.8)	(3.6)	(1.2)	29	硬質泥岩	川尻以西中新統	14
36	ベルト1層		7.5	4	1.7	25	細粒珪質凝灰岩	川尻以西中新統	14
37	3層	石槍	13.1	4.7	1.2	86	硬質凝灰質泥岩	川尻以西中新統	14
38	3層	石筥	13.9	4.2	1.7	118	細粒珪質凝灰岩	川尻以西中新統	14



S = 1/3

第17図 遺構外出土遺物

V まとめ

1 陥し穴について

4 基検出された陥し穴は全て同タイプのものである。分布や配列に規則性が見られることから同時期に構築され、段丘縁を活用し狩りをしたものと推測される。検出面はIV層上面であるが水田造成のため削平を受けていることから、構築時の深さを保っていないも可能性がある。構築時期は不明であるが、これまでの調査例から縄文時代の遺構と考えられる。

2 掘立柱建物跡について

1 棟検出された掘立柱建物跡は伴出遺物に肥前産18世紀の磁器碗、陶器皿が含まれて居ることから、相当年代の構築と考えられる。

平成4年度に調査した同町内白木野Ⅱ遺跡では17世紀から現代まで連続して営まれた民家跡が検出されているが、本遺跡からも当地方の近世民家の好資料を得ることができた。

引用・参考文献

- | | |
|------------|--|
| 田村社一 | 1987「陥し穴状遺構の形態と時期について」『紀要Ⅶ』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 高橋與右衛門 | 1989「掘立柱建物の間尺とその時代性」『紀要Ⅸ』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 岩手県文化振興事業団 | 1993『白木野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター報告書第200号 |

付編 上野々遺跡出土材の樹種

高橋 利彦 (木工舎「ゆい」)

1 試料

試料は1点で、近世の柱根と考えられているものである。

2 方法

剃刀の刃を用いて試料の木口・柾目・板目の3面を徒手切片を作成、ガム・クロラール (Gum Chloral) で封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版 (図版1) も作成した。なお作成したプレパラートは木工舎「ゆい」に保管されている。

3 結果

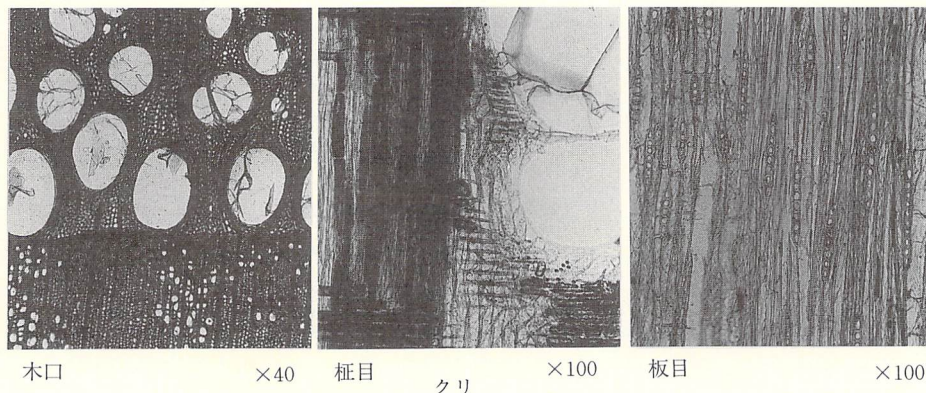
試料はクリに同定された。試料の主な解剖学的特徴や現世種の一般的な性質は次のようなものである。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科

環孔材で孔圏部は1~4列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断管では円形~楕円形、小道管は単独および2~3個が(放射)方向に複合、横断面では角張った楕円形~多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状~網目状となる。放射組織は同性、単(まれに一部2)列、1~15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫓木や海苔粗朶などの用途が知られている。

試料は上記のように掘立柱と考えられているものであるが、強度や耐朽性の点で用材としては最も適した樹種を用いているといえよう。

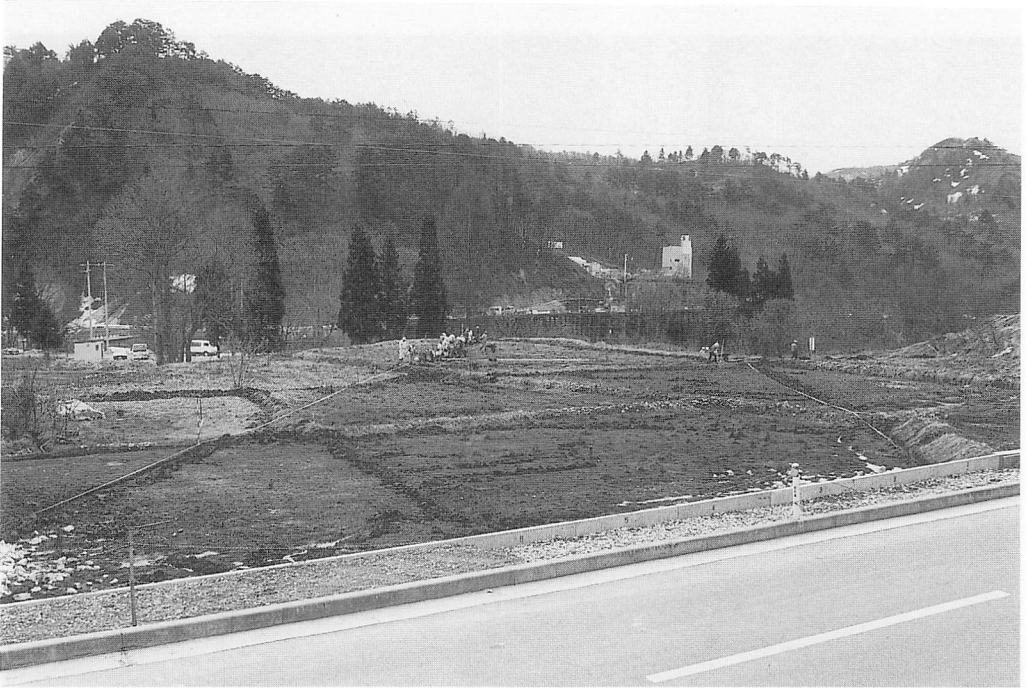


図版1 顕微鏡写真

写真図版



写真図版 1 上野々遺跡遠景

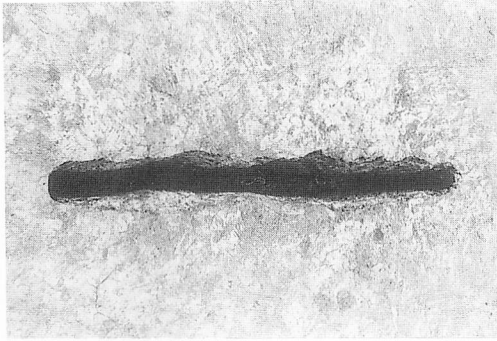


遺跡現状



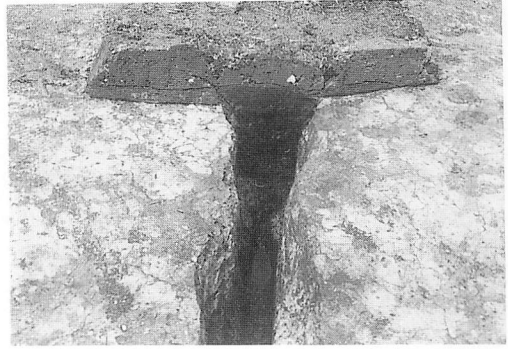
調査区全景(完掘)

写真図版2 調査区全景他

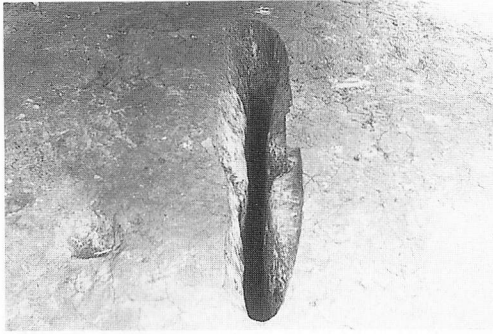


1号陥し穴

平面

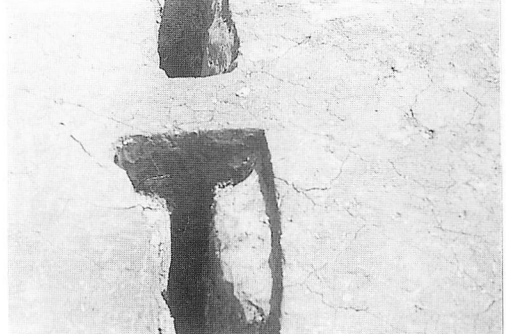


断面

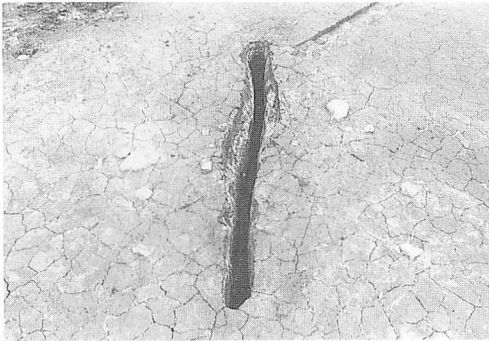


2号陥し穴

平面

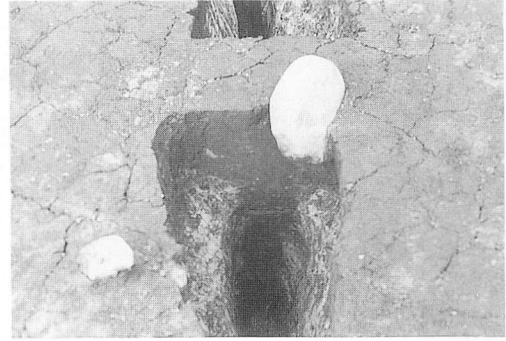


断面

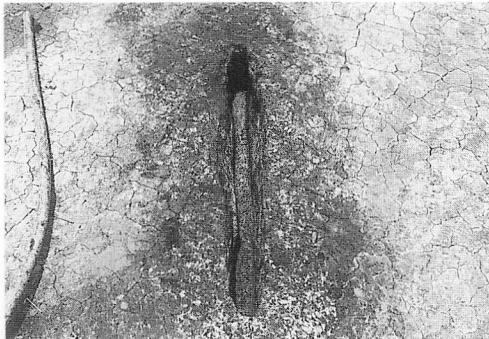


3号陥し穴

平面



断面



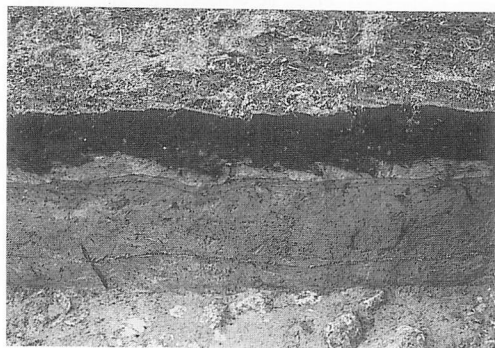
4号陥し穴

平面



断面

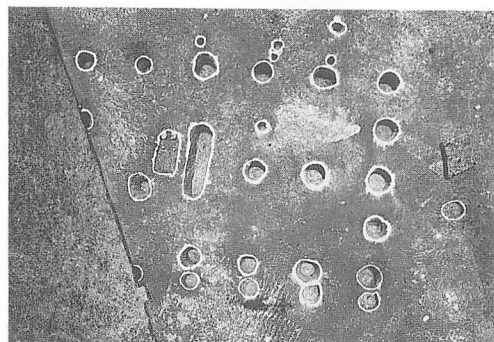
写真図版3 陥し穴



基本土層



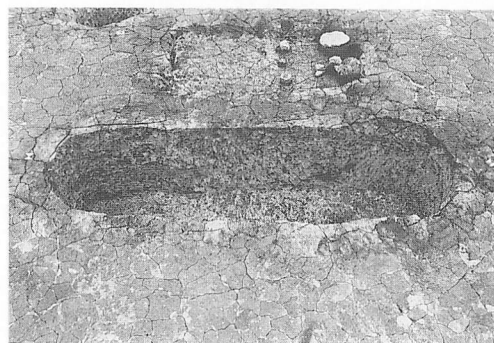
掘立柱建物跡



掘立柱建物跡 平面



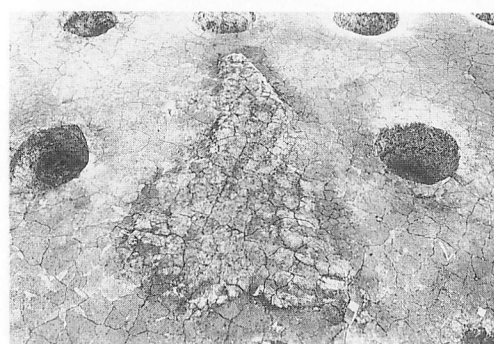
土坑No. 2 平面



土坑No. 1 (布掘) 平面



断面



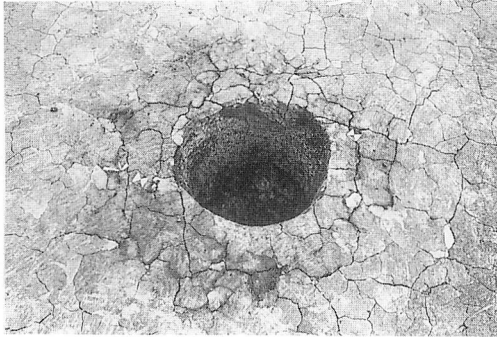
貼床 平面



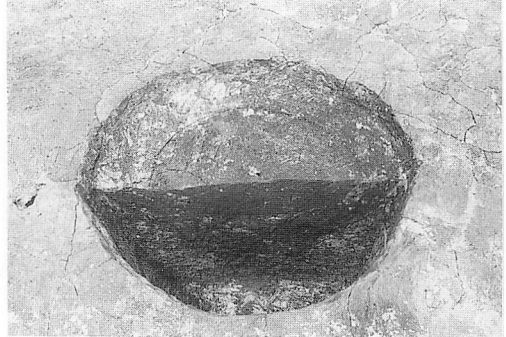
断面

写真図版 4 掘立柱建物跡他

No. 1

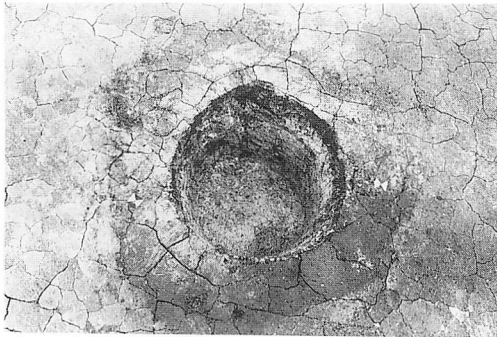


柱穴No. 1 平面

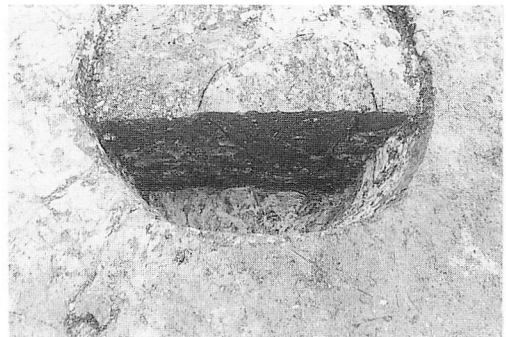


断面

No. 2

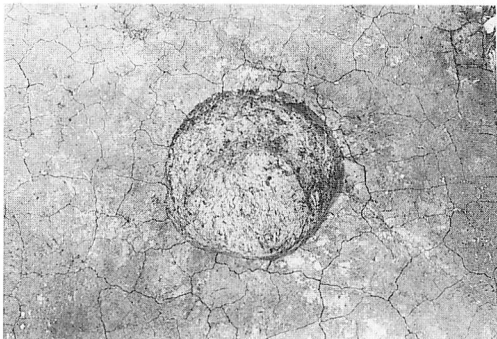


柱穴No. 2 平面

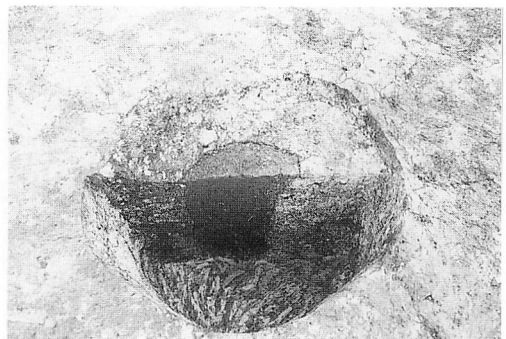


断面

No. 3

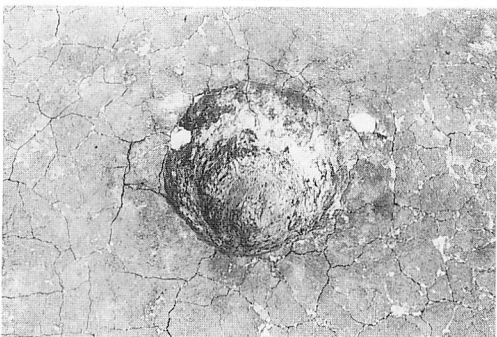


柱穴No. 3 平面

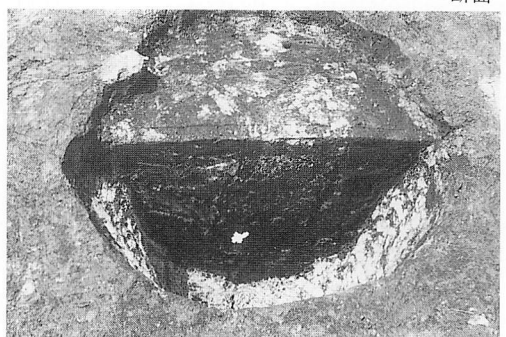


断面

No. 4



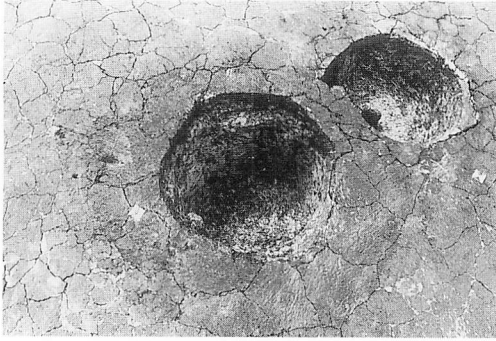
柱穴No. 4 平面



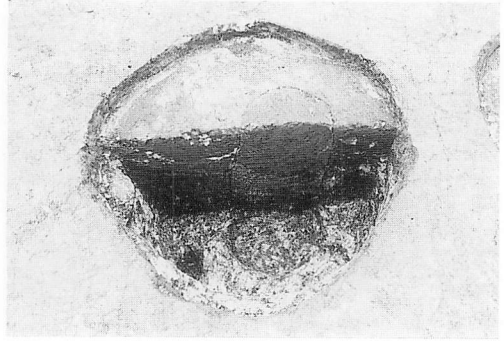
断面

写真図版 5 掘立柱建物跡柱穴(1)

No. 5

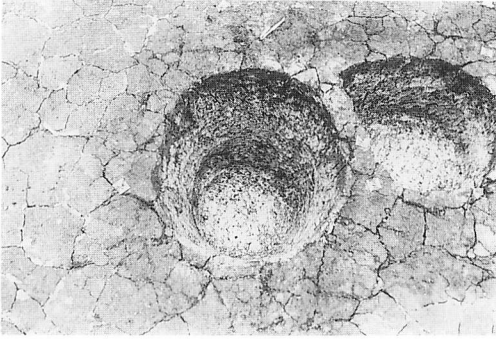


柱穴No. 5 平面

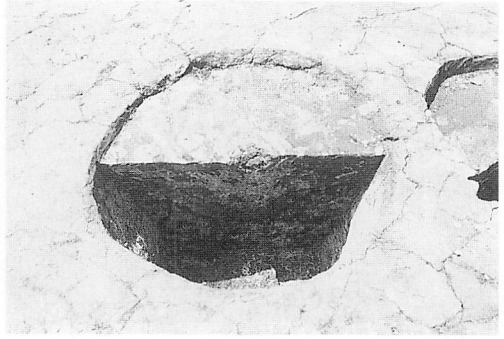


断面

No. 7



柱穴No. 7 平面



断面

No. 9

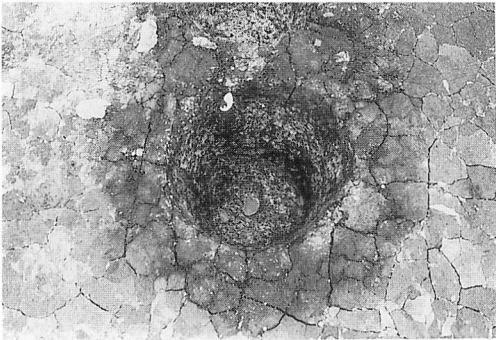


柱穴No. 9 平面

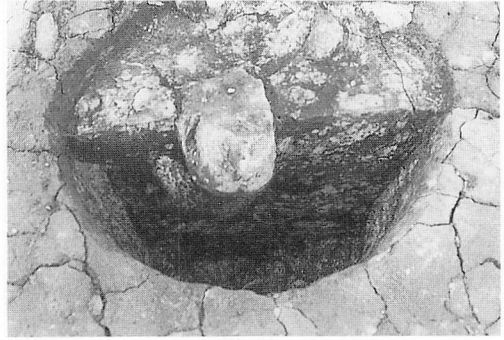


断面

No. 11



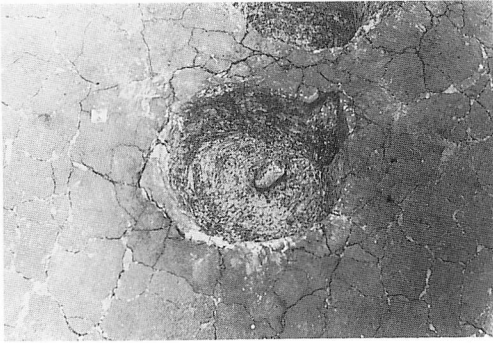
柱穴No. 11 平面



断面

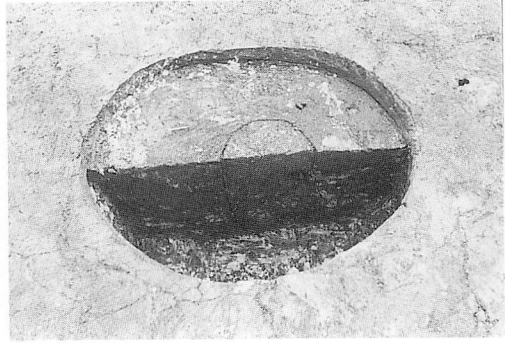
写真図版 6 掘立柱建物跡柱穴(2)

No. 6



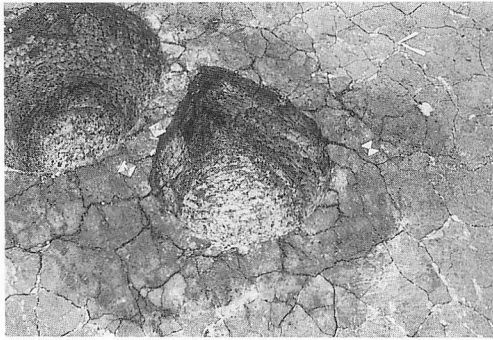
柱穴No. 6

平面



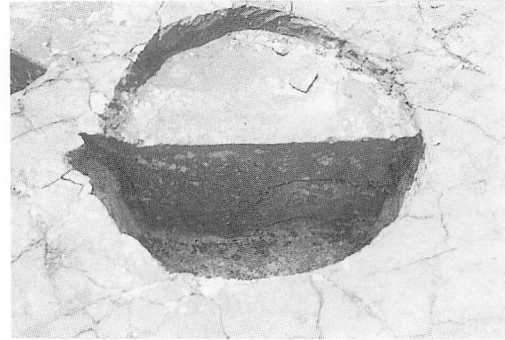
断面

No. 8



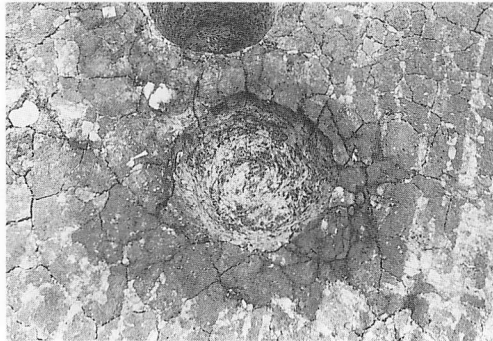
柱穴No. 8

平面



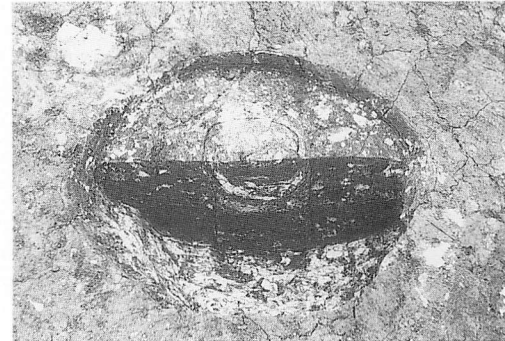
断面

No. 10



柱穴No. 10

平面



断面

No. 12



柱穴No. 12

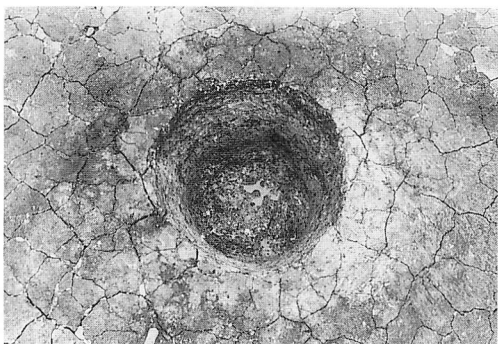
平面



断面

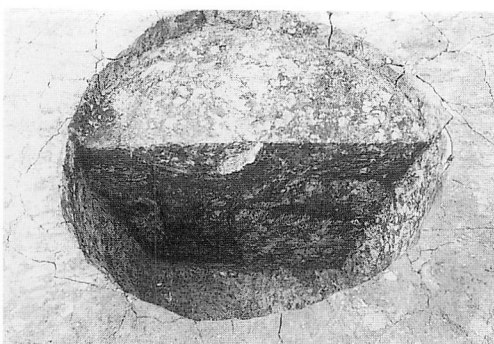
写真図版 7 掘立柱建物跡柱穴(3)

No.13



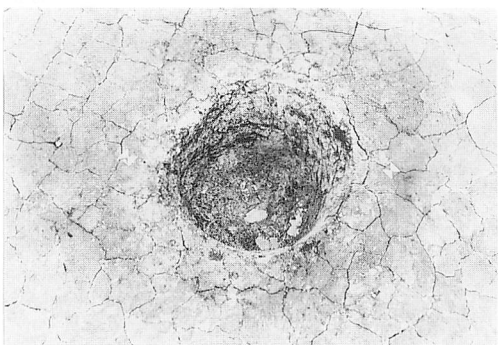
柱穴No.13

平面



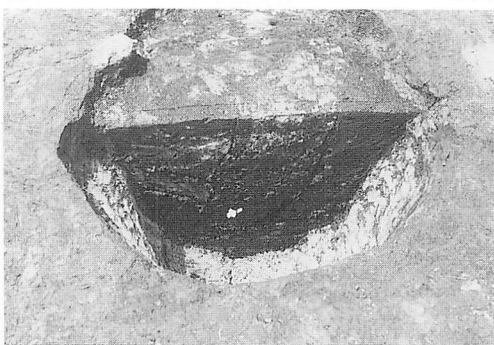
断面

No.14



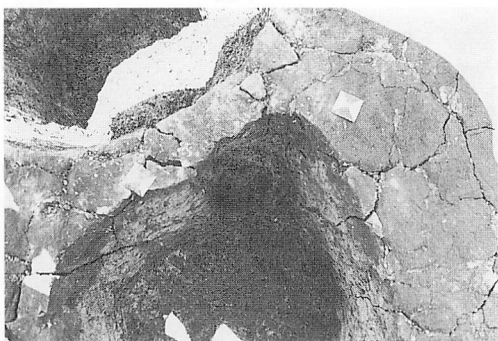
柱穴No.14

平面



断面

No.30



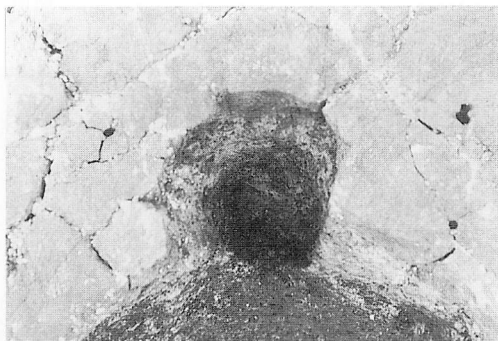
柱穴No.30

平面



断面

No.31



柱穴No.31

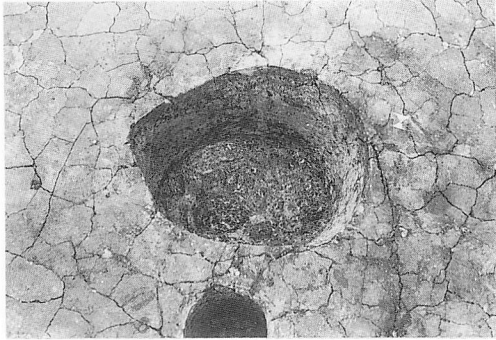
平面



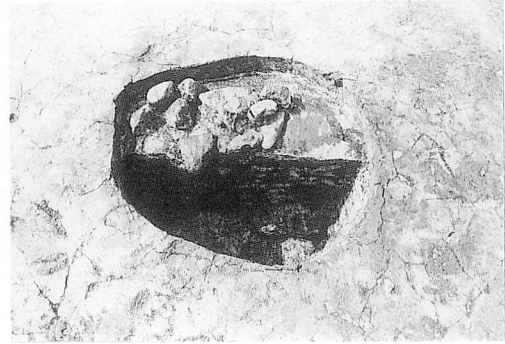
断面

写真図版 8 掘立柱建物跡柱穴(4)

No.17

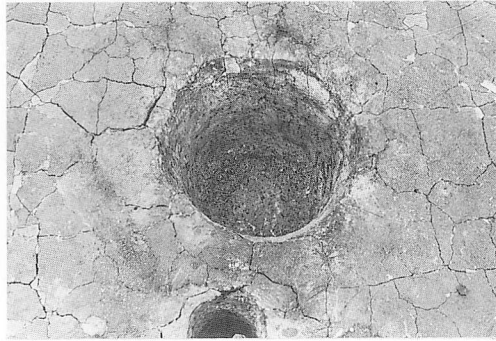


柱穴No.17 平面



断面

No.18



柱穴No.18 平面

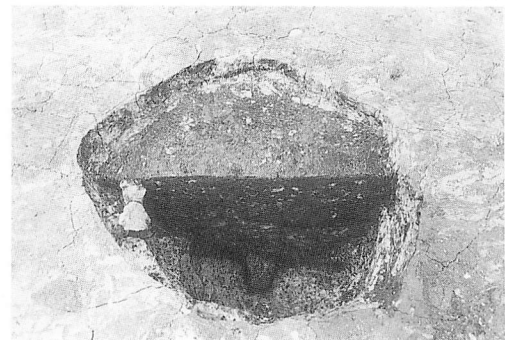


断面

No.16

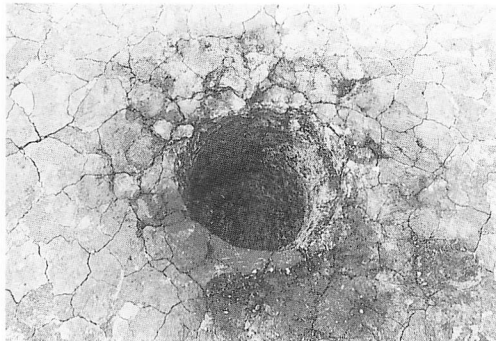


柱穴No.16 平面

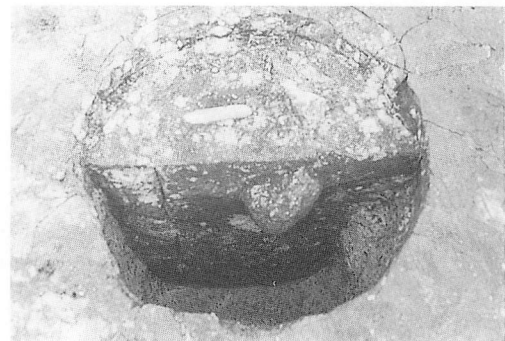


断面

No.19

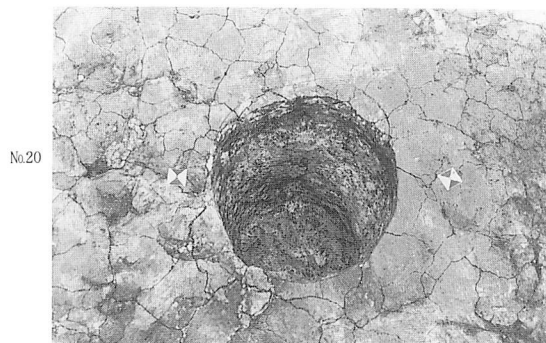


柱穴No.19 平面

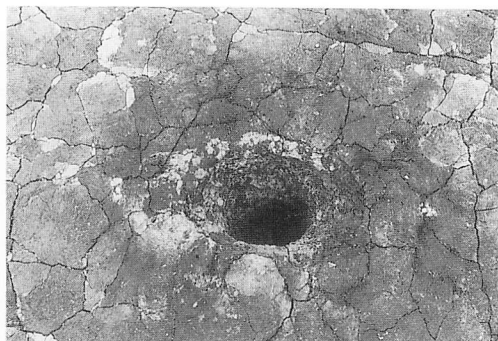


断面

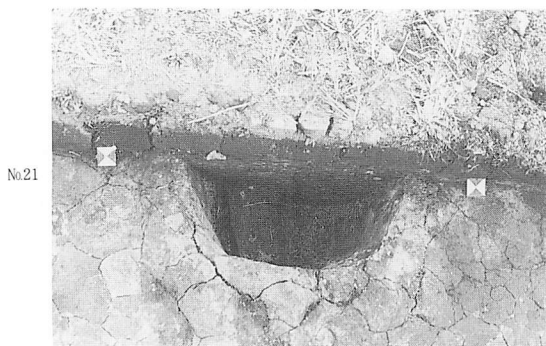
写真図版9 掘立柱建物跡柱穴(5)



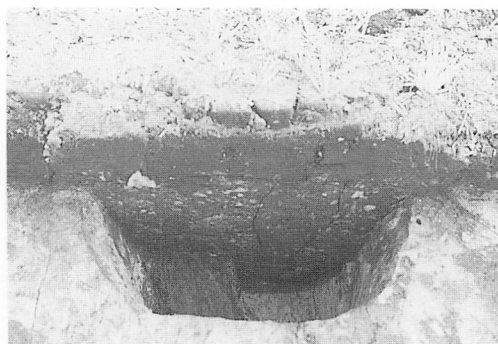
柱穴No.20 平面



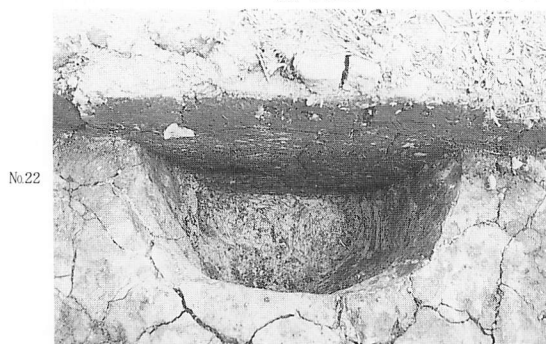
断面



柱穴No.21 平面



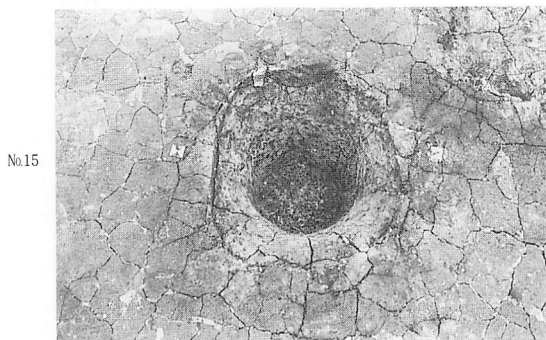
断面



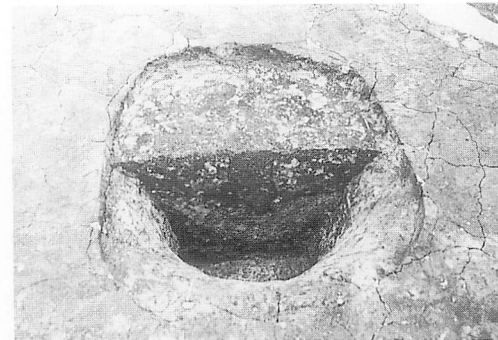
柱穴No.22 平面



断面



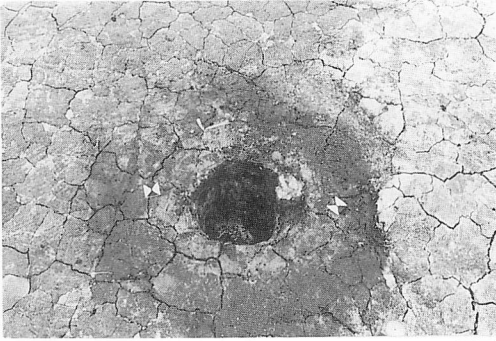
柱穴No.15 平面



断面

写真図版10 掘立柱建物跡柱穴(6)

No.27

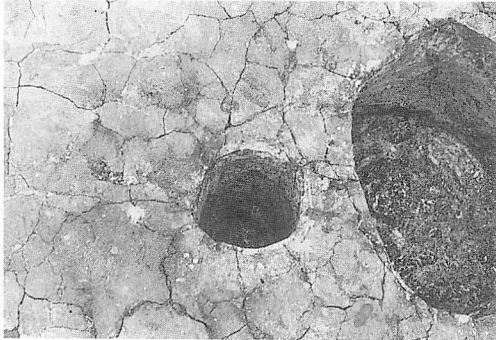


柱穴No.27 平面

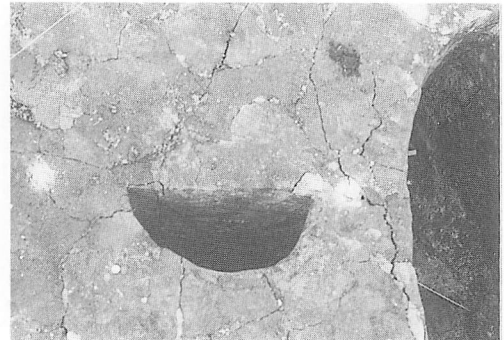


断面

No.24

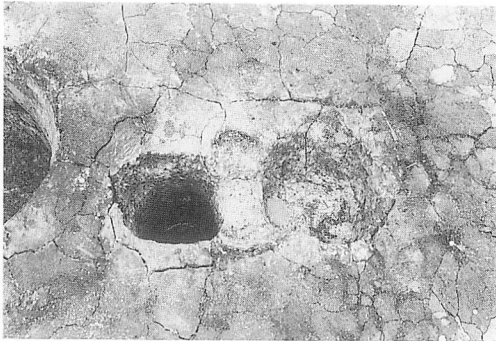


柱穴No.24 平面

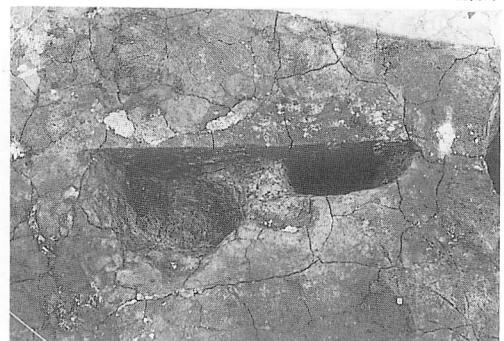


断面

No.25・26



柱穴No.25・26 平面



断面

No.28



柱穴No.28 平面



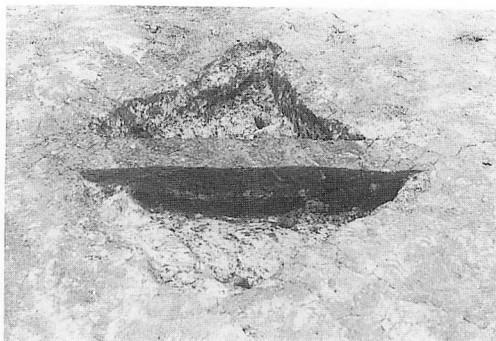
断面

写真図版11 掘立柱建物跡柱穴(7)

土坑No. 1



土坑No. 1 平面



断面

土坑No. 2



土坑No. 2 平面

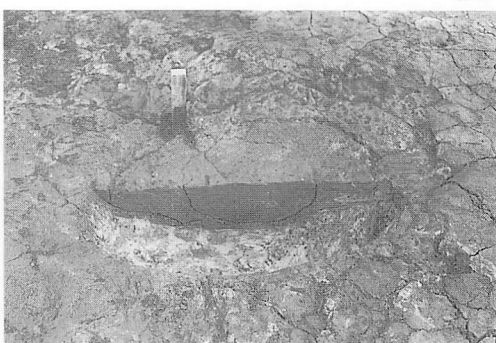


断面

土坑No. 3



土坑No. 3 平面

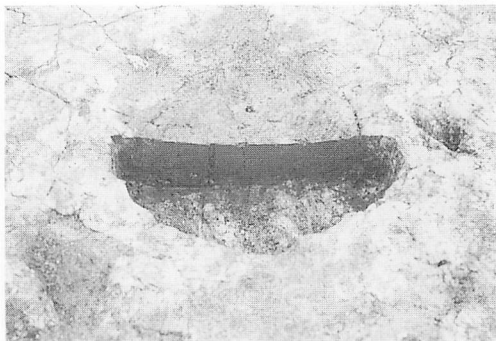


断面

No.29

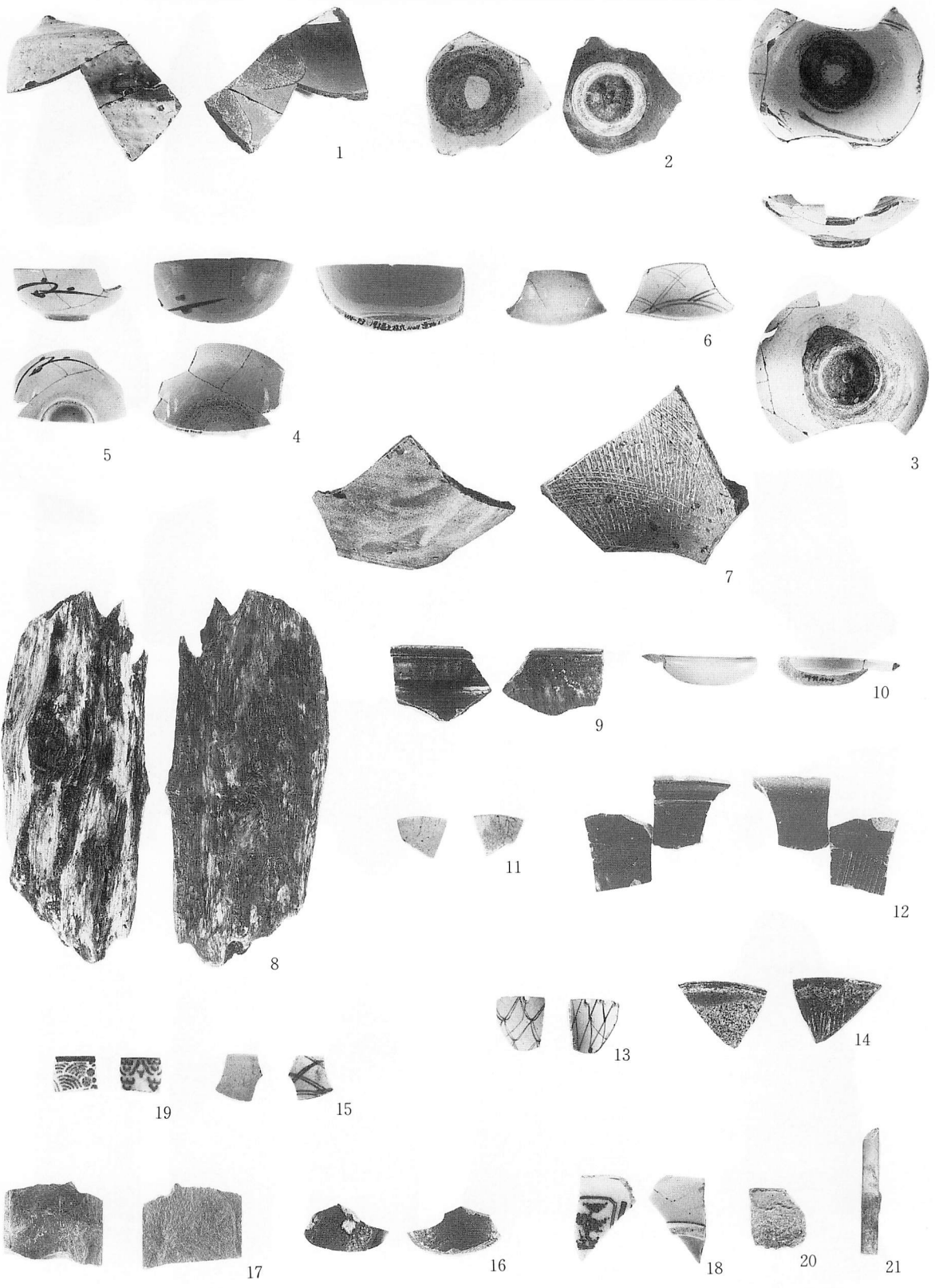


土坑No. 4 平面

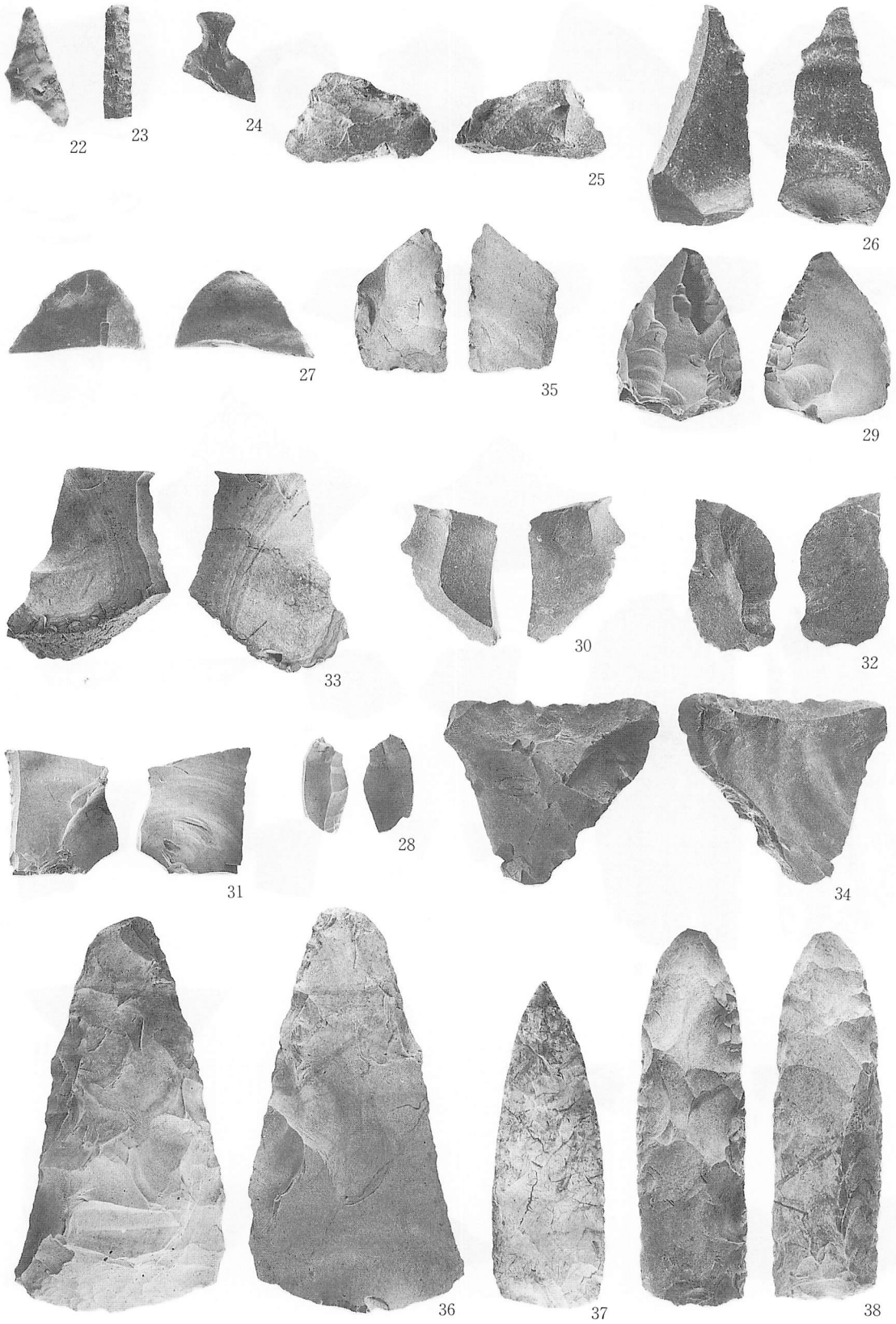


断面

写真図版12 土坑



写真図版13 出土遺物



写真図版14 遺構外出土遺物（石器）

報告書抄録

ふりがな	うえののいせき							
書名	上野々遺跡							
副書名	国道395号改良工事関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第212集							
編著者名	鈴木貞行							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 盛岡市下飯岡11-185 TEL0196-38-9001・9002							
発行年月日	西暦 1995 年 3 月 31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
上野々のいせき 上野々遺跡	いわてけんわがくん 岩手県和賀郡 湯田町 第39 地割 65 - 2	03363		39°18′18″	141°46′52″	199930419～ 19930531	2,500	東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上野々遺跡	散布地	縄文時代 近世	陥し穴 掘立柱建物跡	4基 1棟	縄文時代土器片・石器 近世陶磁器		なし	

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第212集

上野々遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田建設関連遺跡発掘調査

平成7年3月24日 印刷

平成7年3月31日 発行

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (0196) 38-9001

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020 盛岡市名須川町23-27

電話 (0196) 25-2323